

柴田町新図書館基本計画

【241011版】

令和6年10月

柴 田 町

目次

1 整備の目的・経緯	4
1-1 基本計画の位置付けの整理.....	4
1-2 都市再生整備計画で示された課題と方向性	5
1-3 基本構想における新図書館の在り方	6
1-3-1 基本コンセプト	6
1-3-2 空間構成・機能の想定	7
1-3-3 関連事業の実施実績.....	7
2 図書館を核としたまちづくりの可能性の検討	8
2-1 図書館や公共施設によるまちづくり事例	8
2-2 新図書館と連携することが想定できる地域資源の検討	12
3 町民ニーズの把握	13
3-1 町民ワークショップの実施.....	13
3-1-1 第1回ワークショップ	13
3-1-2 第2回ワークショップ	15
3-1-3 第3回ワークショップ	17
3-1-4 第4回ワークショップ	20
3-2 町民ワークショップから考えられる新図書館の全体像	23
4 施設計画とサービスの基本方針.....	24
4-1 基本コンセプト	24
4-1-1 基本的なサービスの充実した図書館.....	25
4-1-2 コミュニケーションの場や自分の居場所となる図書館.....	25
4-1-3 町の歴史を学ぶ場や郷土をアピールする機能を持つ図書館.....	25
4-1-4 施設を訪れるきっかけを提供し、多世代が共に利用できる図書館.....	25
4-1-5 子どもの心の豊かさを育み、共に成長する図書館	25
4-2 必要な機能の整理	26
4-3 蔵書規模目標	27
5 施設の計画概要	28
5-1 敷地利用計画	28
5-1-1 敷地概要・法的条件の整理	28
5-1-2 周辺配置図及び関連計画の整理	30
5-1-3 災害条件の確認	31
5-1-4 気象条件の確認	31
5-2 建築計画	33
5-2-1 規模・構造形式	33

5-2-2	敷地利用計画・施設の構成イメージ・施設内ゾーニング計画	33
5-2-3	諸室面積表	38
5-2-4	ユニバーサルデザインの方針	39
5-3	設備計画	40
5-3-1	電気設備計画.....	40
5-3-2	機械設備計画.....	41
6	管理運営方針	43
6-1	開館時間・休館日	43
6-2	管理運営体制	43
6-3	町民が参加する運営の仕組みづくり	43
7	事業計画.....	44
7-1	概算事業費.....	44
7-2	整備スケジュール	44
8	資料編	45
8-1	ワークショップ 意見一覧.....	45
8-1-1	第1回ワークショップで挙げた意見一覧.....	45
8-1-2	第2回ワークショップで挙げた意見一覧.....	57
8-1-3	第3回ワークショップで挙げた意見一覧.....	64
8-1-4	第4回ワークショップで挙げた意見一覧.....	71

1 整備の目的・経緯

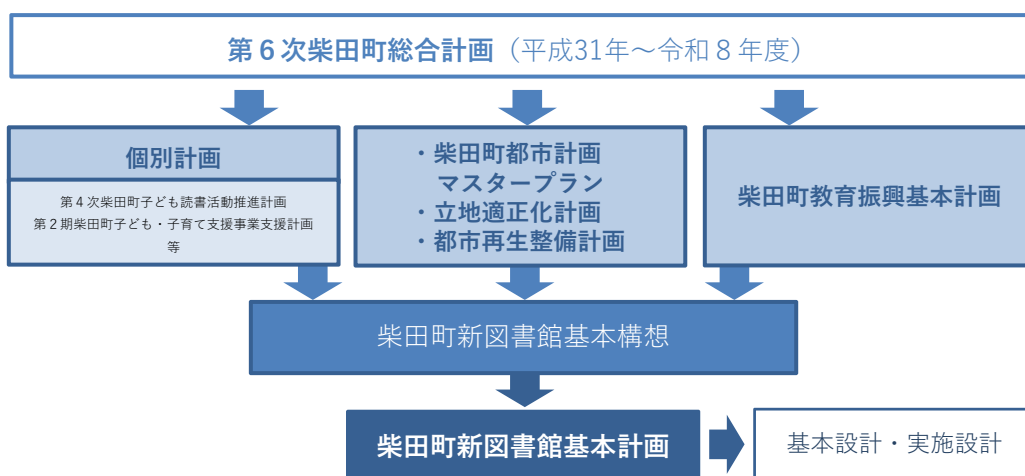
1-1 基本計画の位置付けの整理

柴田町では、しばたの郷土館内に開設された現図書館がハード面で抱える多くの課題を背景に、新図書館の整備は長年の懸案事項となっていました。「都市再生整備計画」の中で新図書館を核としたエリア一帯の再整備事業が国に認可されたのを契機に、船岡地区でのまちづくりの一環として新図書館の整備を進め、船岡城址公園やしばたの郷土館との連携により、まち中に交流や賑わいをつくり出す施設とすることを目指しています。

令和5年度には、公募によって選ばれた町民、学識経験者、図書館関係者等をメンバーとして組織された「新図書館建設検討委員会」を中心に、町民アンケート調査やワークショップ、住民懇談会に参加いただいた方々の意見を踏まえ、「柴田町新図書館基本構想」（以下、「基本構想」という）を策定しました。

続いて令和6年度に「柴田町新図書館基本計画」（以下、「本計画」という）を策定するに当たり、設計者選定プロポーザルを実施しました。選定された設計者が柴田町のパートナーとなり、提案をもらいながら本計画を策定しました。今後は令和9年度中の開館に向けて設計業務へ移行していきませんが、町民と一緒に本計画を検討する中で、図書館と既存の周辺施設をコアとしたまちづくりや、パブリックスペースとして機能する図書館の考え方を発展させ、管理運営計画と連動した地域の活性化につながる施設計画としています。

図 1-1 基本計画の位置づけ



1-2 都市再生整備計画で示された課題と方向性

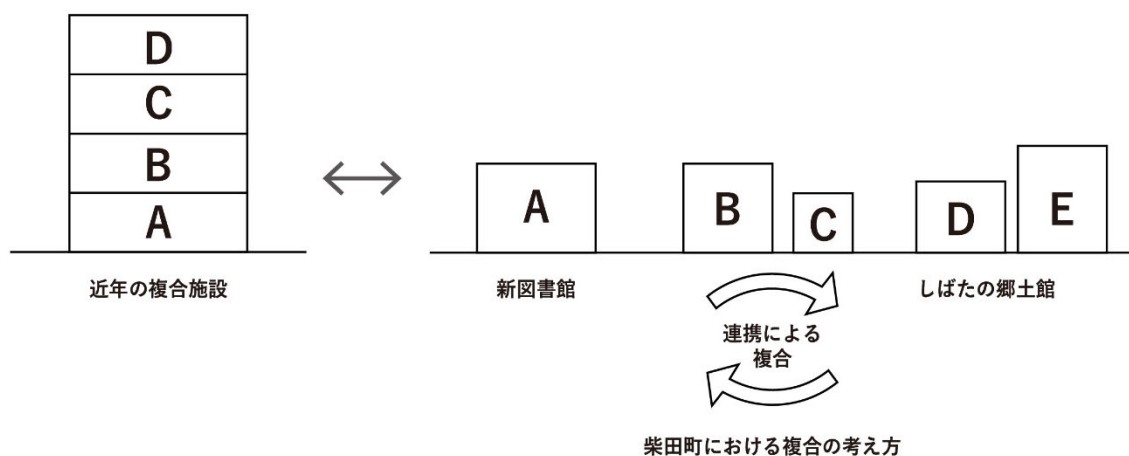
都市再生整備計画の中では、当該エリアの課題として次のようなことが示されています。

- ・ 船岡城址公園の集客力を街中の回遊に結び付ける仕掛けづくりが不十分
- ・ 隣接する「しばたの郷土館」と「船岡城址公園」の相互の連携が不十分で、まちの魅力ある施設が活かしきれていない
- ・ 多世代、多様なニーズに応える、まちのシンボルとなるようなパブリックスペースが無い

上記を踏まえて新図書館を計画するに当たり、当該エリアの整備方針のひとつである「町の新たなシンボルとなる自然・歴史・文化が詰まった賑わい・交流拠点ゾーンの整備」を見据え、「知の拠点である新図書館建設を中核として、歴史や文化の拠点であるしばたの郷土館や桜で有名な観光拠点である自然豊かな船岡城址公園が一体化した、高質な道路や歩行空間を備えたパブリックスペース」を実現する計画とすることが求められています。

また、近年公共施設の集約・複合化は、人口減少や高齢化に対応して集約型都市構造に転換していくコンパクトシティ政策への一環と位置付けられていますが、柴田町における再整備では周辺の既存施設を活用（改修）しながら、エリア全体として複合的な機能を持つ施設を整備する手法により、柴田町ならではの新図書館を含めた複合エリアを整備します。

図 1-2 柴田町における集約・複合化の考え方



1-3 基本構想における新図書館の在り方

1-3-1 基本コンセプト

基本構想では現図書館の抱える課題を背景に、誰にでも利用しやすい図書館としての基本的なサービスだけでなく、住民等の交流や体験、学習活動、まちづくり活動の場としても利用される、新たなパブリックスペースとして機能する図書館を目指して基本理念を、

出会う つながる 未来を創る

と設定しました。また、基本方針として以下の5つを示しています。これらの方針に基づきながら、より発展させた具体的な方針を基本計画の中で定めていきます。

- 1) 誰にでも利用しやすく、心安らぐ居心地の良い図書館
- 2) 知る・学ぶ・究めるを支援する、基本サービスが充実した図書館
- 3) 子どもたちの想像力や心の豊かさを育む図書館
- 4) 自由に人が集まり、交流し、新たな賑わいを生み出す図書館
- 5) 住民や地域の活動を支え、まちの未来を創る図書館

1-3-2 空間構成・機能の想定

全体のゾーニングは、本来図書館の持つ図書機能と交流や賑わいの機能を融合させるため人の動きや音について、静のスペースと動のスペースにフロアを分けながら、それぞれのスペースはつながりのあるものとする、壁や仕切りなどで、窮屈に感じることがない開放的な館内とすることが方針として示されています。また以下のように、必要となると想定される機能の基本的な考え方が整理されています。

図 1-3 想定される主な機能（基本構想）

名称	主な機能
開架スペース	一般図書、新聞・雑誌、参考図書、地域資料、点字資料、閲覧席、調べ学習スペース（複数人で使用できるもの）、学習スペース、総合カウンター、絵本、児童書、絵本読み聞かせコーナー （書架は誰にでも使いやすい段数とする。書架の間隔は、人と車椅子が余裕を持ってすれ違うことができるように設定）
書庫	閉架書庫
研修室等	研修室、ボランティア室兼対面朗読室（図書館にかかわるボランティアが活動しやすい環境の整備について検討）
その他の施設等	トイレ、児童用トイレ・授乳室・おむつ交換コーナー（児童スペース近くに設置し、子ども連れの利用者の利便性の向上を図る）、公衆無線LAN、屋外読書コーナー、エントランス（飲食ができる交流スペースを含む）など
管理部門	事務室、休憩室、更衣室、機械室など

1-3-3 関連事業の実施実績

賑わい交流プレイスデザインワークショップ（令和4年～継続）

船岡城址公園・しばたの郷土館周辺を「賑わい交流拠点」として位置付け、エリアの再整備に必要な機能を考えるワークショップが行われています。これによりしばたの郷土館を改修することにより新たに配置する機能が整理されています。

新図書館建設検討委員会（令和5年～継続）

柴田町新図書館基本構想（案）に係るパブリックコメント（令和6年）

2 図書館を核としたまちづくりの可能性の検討

2-1 図書館や公共施設によるまちづくり事例

柴田町の都市再生整備計画において、本計画は基幹事業に位置付けられており、船岡地区全体の回遊性や利便性の向上に寄与し、しばたの郷土館や船岡城址公園と一体化することで、新たな賑わいと交流の拠点となり柴田の未来のまちづくりにつなげていくことが謳われています。

国内には図書館を始めとする公共施設が周辺の地域資源（施設・場所・組織・人等）と連携することで相乗効果を生み出し、その施設のみではなく地域全体の発展にも貢献する事例が多く見られます。

このため本計画の参考となる国内の参考事例を以下に整理し、柴田図書館との連携によりまちづくりにつながる可能性のある地域資源を検討します。

- 図書館と周辺施設の連携（事例①・②）
- 図書館と民間企業の連携（事例③）
- 図書館と市民団体の連携（事例④）
- 図書館から地域への情報発信（事例⑤）
- 屋外空間の活用（事例⑥）
- まちの回遊性の促進（事例⑦）
- 歩いて楽しいまちづくり（事例⑧）
- 地域コーディネーターの運営参画・協力（事例⑨）

事例 ①：図書館と周辺施設の連携-1
公共図書館と周辺施設が連携し、人の流れや活動を促している事例（栃木県那須塩原市）
概要： 黒磯駅の駅前に立地する那須塩原市図書館「みるる」は、1階は駅前広場から繋がる路地上の空間で、図書館に市民の日常動線を引き込む構成となっている。広場を活用した図書館のイベントも行われ、まちとの繋がりを生む図書館となっている。
事例から考えられる連携対象： 周辺の公共施設、広場など
事例 ②：図書館と周辺施設の連携-2
まちの様々な場所に本棚を設置してサテライトライブラリーとしてまちじゅうを図書館とした事例（長野県小布施市・山口県山口市 他）
概要： 長野県小布施町など多くの自治体で実施されている取組み。気軽に読書に親しめるように、個人の自宅や店舗など人が集まる場所にサテライトライブラリーを設置して、新たな発見や学びの場を創出する。 山口県山口市では、図書館でセレクトした本をデリバリーして、定期的に本の入れ替えも行っている。
事例から考えられる連携対象： 個人住宅・店舗・役場・駅の待合スペースなど
事例 ③：図書館と民間企業の連携
地元企業応援コーナーを図書館内に設置した事例（鳥取県鳥取市）
概要： 地域の人々に地元企業への興味を持ってもらい、地域の発展につながることを目的として、図書館のエントランスに地元の企業、事務所、研究機関及び団体などを対象にした情報発信スペースを無償で貸し出す取り組み。要望があれば図書館の関連図書や資料の展示・貸出しも行い図書館利用にもつなげている。
事例から考えられる連携対象： 地元企業、団体など

事例 ④：図書館と市民団体の連携
公共図書館に市民団体発案のリサイクルブックオフィスを設置し、リサイクル本の販売を行っている事例（愛知県田原市）
概要： 田原市立図書館では、市民が企画運営に参加し、リサイクルブックオフィス（RBO）と呼ばれるコーナーを運営し、リサイクル本の販売を行っている。この企画は市民団体の発案によって図書館の開館準備段階から始まり、現在はNPO法人に運営が移管されている。
事例から考えられる連携対象： 市民団体・NPO法人など

事例 ⑤：図書館から地域への情報発信
公共図書館が、地域・人・情報をつなぐハブとなっている事例（岩手県紫波町）
概要： オガールプラザ内にある紫波町図書館では、司書の幅広い活躍が地域と人と情報とをつなげる地域コミュニティのハブとなっている。町の情報を集め、町民に知ってもらいたいことや町の課題が何かを探り企画展のテーマを設定することや、出張図書館での情報提供など、多角的な手法で情報発信を行っている。
事例から考えられる連携対象： 小学校・中学校・公民館・地元企業など

事例 ⑥：屋外空間の活用
公民連携で広場を活用し、賑わいを生み出している事例（静岡県沼津市）
概要： 使われなくなった沼津市立少年自然の家の広大な芝生広場を活用し、屋外宿泊施設を計画。宿泊施設の管理を民間企業が、その他の広場等公園の管理を市が担っている。公園や広場など公共施設の持つ屋外空間に新しいプログラムを呼び込み、賑わいを生み出している。
事例から考えられる連携対象： 宿泊施設、屋外施設運営企業・船岡城址公園

事例 ⑦：まちの回遊性の促進
「モビリティハブ」を設置し、まちの回遊性向上に取り組んでいる事例（埼玉県さいたま市など）
概要： カーシェアリングや自転車シェアリング、電動キックスクーターなどの貸し出し拠点を集約して移動の選択肢を提供し、まちなかの回遊を促す取り組み。
事例から考えられる連携対象： 駅・大学・町内施設など（自転車や電動キックボードなどのモビリティハブの整備場所として）

事例 ⑧：歩いて楽しいまちづくり
道沿いに魅力を点在させた、歩いて楽しいまちづくりの事例（青森県十和田市）
概要： 道沿いの美術館を中心に、桜が美しく日本の道100選にも選ばれた「官庁街通り」に様々なアート作品を設置し、まち全体を美術館と見立てた取り組みが行われている。中心市街地の回遊性を高め、歩いて楽しいまちづくりを実践している。
事例から考えられる連携対象： 歴史的町並み・商店街・しばたのオープンガーデンなど

事例 ⑨：地域コーディネーターの運営参画・協力
地域コーディネーターによるまちづくりのサポート事例（東北チャレンジコミュニティ）
概要： 地域コーディネーターと呼ばれるサポーターが、事業者や地域の持つ課題解決や取り組み実現に向けて、事業の内容に適したスキルを持った人材の募集や、受け入れ事業者と人材との仲介等を行う取り組み。地域に密着しながら、住人や事業者のやりたいこと・困ったことを見つけ出してプロジェクト化し、様々な人材や組織と関係を深めながら連携・マッチング・サポートを行う。
事例から考えられる連携対象： 地域コーディネーターなど

2-2 新図書館と連携することが想定できる地域資源の検討

2-1で示した事例を踏まえ、柴田町における新図書館と連携することが想定できる地域資源を以下に記します。

図 2-1 計画地周辺の地域資源

施設	しばたの郷土館/小中高等学校/公民館/大学/船岡駅/商店街
歴史的資源	柴田フットパス/町内の歴史的建造物
自然・屋外公園	船岡城址公園/千本桜/アートガーデン
組織	地元企業/地元書店/NPO団体/ボランティア/各種運営企業（宿泊施設運営・屋外施設運営企業等）/エリアマネジメント業者



3 町民ニーズの把握

3-1 町民ワークショップの実施

町民が求める新図書館のイメージや役割を把握するとともに、町民同士の議論の機会を設けるため、全4回の町民ワークショップを行いました。全ての回を通して同一のグループ構成で実施し、継続的な参加が得られたことからグループ内の結束も生まれ、活発な議論によって多くの意見を得ることができました。

ここではその成果について順を追って整理し、基本計画に反映していく内容を示します。

3-1-1 第1回ワークショップ

第1回ワークショップ開催概要	
開催日時	2024年6月1日（土） 14:00～16:00
開催場所	柴田町保健センター4階多目的ホール
参加人数	25名（5グループで実施）
テーマ	新しい図書館のイメージをふくらませよう
グループワークの内容	あらかじめ配られたお題カードに沿って、各自でどんな図書館が良いかアイデアを挙げてもらった。挙げられた意見をグループ内で意見交換し、分類しながら方向性を整理していく。最後に、各グループの代表者に全体の参加者へ向けて発表を行ってもらった。

当日の様子



まとめ

参加者には班ごとにグループワークの中でアイデアの分類を行って頂きましたが、全体の成果を俯瞰することで共通するテーマを抽出し、改めて7つの共通するカテゴリーに分類しました。下図では全ての意見をカテゴリー毎に集計した比率を示しています。またそれに続く各班のワークシートから、どのグループでも幅広い内容に関するアイデアが満遍なく挙げられたことが分かります。

共通カテゴリー	割合	内容
本・学び	14%	蔵書の充実、郷土資料、学び・勉強に関すること
コミュニケーション・ゾーニング	24%	音環境・ゾーニング、コミュニケーション、 飲食できるスペースに関すること
居心地・環境	32%	自然環境、居心地の良さに関すること
子ども	8%	子ども（児童）に関すること
サービス	9%	図書館サービスに関すること
イベント・連携	9%	イベント、他分野との連携に関すること
町との繋がり	6%	防災、町の活性化に関すること

3-1-2 第2回ワークショップ

第2回ワークショップ開催概要	
開催日時	2024年7月6日（土） 14:00～16:00
開催場所	柴田町保健センター4階多目的ホール
参加人数	29名（5グループで実施）
テーマ	新しい図書館のキャッチフレーズを考えよう ⇒「この図書館を一言で表すとしたら？」
グループワークの内容	前回のグループワークで出たアイデアの振り返りを行い、そこに新しい視点からのアイデアも加えていくことで、グループ内でディスカッションを重ねて、図書館のイメージ像を一つのキャッチフレーズに落とし込んだ。

当日の様子



各班のキャッチフレーズと発表内容

継続的なテーマでグループワークを実施したことで、以下に示すように各班の方向性が色濃く出た多様なキャッチフレーズが示されました。一つのフレーズに至るまでのディスカッションの経緯を踏まえながら、各班のまとめた考えを本計画のコンセプトにも反映させていきます。

A班 子どもと共に成長する「もみの木図書館」（柴田の歴史を感じさせる）

子どもを最優先に考えることで、他の年代も継続に来てくれるような、成長する図書館像と共に、「樅の木は残った」をモチーフに柴田の歴史に繋がるイメージが示された。

B班 私の秘密基地

「秘密基地」という言葉の中に、自分の時間を自由に過ごす、色んな人と交流しながらみんなでも楽しめる図書館という意味が込められている。

C班 よりそう図書館

様々なサービスのアイデアを集約して、素でいられる、何でも相談できる、実践できる、みんな安心して集まれる、など多角的な視点を利用者に「よりそう」という言葉に込めている。

D班 つながるキッカケづくり

子どもを中心に様々な年齢層の利用者を念頭に、利用者同士が繋がるきっかけをつくり、学校や他の公共施設との連携を生むなど、普段から人が集まる図書館を目指す。

E班 自分を豊かにしてくれるオアシス

利用者だけでなく図書館司書も含めて、人の心が豊かになる場所を目指す。様々な目的を持つ利用者がプラスな気持ちになれるよう、安らぎを与える図書館のイメージ。

3-1-3 第3回ワークショップ

第3回ワークショップ開催概要	
開催日時	2024年8月3日（土） 14:00～16:00
開催場所	柴田町保健センター4階多目的ホール
参加人数	29名（5グループで実施）
テーマ	①図書館内に整備する「機能」を考える ②「機能同士の関係性」を考える
グループワークの内容	第1回WSで挙げられたアイデアや、第2回WSで考えたキャッチフレーズを実現するために「どのような機能を、どのように配置するか」について、図書館に想定される様々な機能が書かれた「めんこ」を使いながら考えた。

当日の様子



各グループのアイデアのまとめ

前回のワークショップで各グループが考えたキャッチフレーズを踏まえて機能関係図の作成に取り組んでもらったことで、機能関係図においても5つのグループがそれぞれ重要視していることが反映された案となっている。

A班 キャッチフレーズ：子どもと共に成長する「もみの木図書館」（柴田の歴史を感じさせる）

子どものスペースを広くとりつつも、時間帯によって大人や学生、高齢者も利用できるスペースとして多目的に利用できる構成や、子どもの本は年齢に応じたゾーニングとすることなど、子どものスペースに重点を置いた提案がされた。また、ボランティア室を利用した利用者同士の本の交換や提供など、住民参画を促す機能も提案された。

B班 キャッチフレーズ：私の秘密基地

エントランスエリアに住民の作品や地域のお宝を展示できるスペース、町の情報スペース、イベントスペース、本の寄付コーナー等を配置し、エントランスエリアの充実が図られた。また、開架エリアでも多くのめんこ（機能）を入れ込んだ構成となっており、様々な居場所をつくる空間構成が提案された。開架エリアは声を出せるエリアと、静かなエリアのゾーニング分けがなされ、ひとりでも、みんなでも、自由に過ごせる空間構成が提案された。

C班 キャッチフレーズ：よりそう図書館

イベントスペースや子どもゾーンの近くに、それぞれの活動と関連した本を配置することが提案された。またイベントスペースは展示スペースや屋外空間と連携した「可変性のある空間」として、様々な町民の活動を受け入れるような空間が提案された。そのほか、子どもゾーンの見守りやすさを考慮した空間構成や、町民が内容を企画できる棚（市民がつくる棚）など、安心して利用できる、町民のアイデアが集まる構成が提案された。

D班 キャッチフレーズ：つながるキッカケづくり

エントランスゾーンに展示スペース（子どもの絵の展示など）や興味をひきやすい雑誌など、図書館に入りやすいキッカケをつくるという視点でエントランスゾーンの機能が提案された。地域・郷土資料へのアクセスがしやすい機能配置や、さらに深い情報へのアクセスにつながるキッカケをつくり、しばたの郷土館とも連携できるしくみが提案された。子どもスペースの近くには子どもだけでなく、一緒に訪れた親にとっても来なくなる、興味をもてる本を配置することが提案された。

E班 キャッチフレーズ：自分を豊かにしてくれるオアシス

子どもスペースは声を出してもよいスペースとしてまとめることや、しばたの郷土館の中庭とのつながりが提案された。エントランスにつながるイベントスペースや展示スペースは交流スペースや情報スペースなどと連携し合いながら、訪れた人に様々なプラスをもたらす仕組みが提案された。

3-1-4 第4回ワークショップ

第4回ワークショップ開催概要	
開催日時	2024年9月7日（土） 14:00～16:00
開催場所	柴田町保健センター4階多目的ホール
参加人数	25名（5グループで実施）
テーマ	屋外空間の機能や使い方を考える ・「図書館の庭」としての屋外空間 ・「柴田町の賑わいと交流の拠点」としての屋外空間
グループワークの内容	新図書館敷地の屋外空間の使い方について、用意したアイデアカードに自由に書き出してもらいグループ内で意見交換を行った。現状の敷地利用計画案や施設計画案を含めた周辺配置図をワークシートとして準備し、屋内の使い方との連携や敷地周辺施設との連携などのアイデアもグループワークの中で議論した。

当日の様子



各グループのアイデアのまとめ

屋外空間をテーマとしたグループワークであったが、屋内との関係性や周辺施設との連携など広い視点でのアイデアが多く挙げられていた。また新図書館敷地としばたの郷土館敷地の間の道路についての意見も多く、本計画地にとどまらない、周辺計画との調整を踏まえて新図書館の外構計画を行う必要がある。

A班

自然を感じられる屋外空間や、子どものイベントができる屋外空間が提案された。子どもの利用に関しては、屋内の子どもエリアからつながるような空間のイメージも挙げられた。また郷土資料について、新図書館だけでなくふるさと文化伝承館のスペースを活用するアイデアが提案された。

B班

自然や生き物のことを学べる屋外空間の展示や、花壇や畑など植物や食べ物に関する学びが得られる屋外空間など、調べ学習をはじめとした図書館の利用と連携できる屋外空間のアイデアが提案された。また東側に隣接する住宅街への配慮や、郷土館敷地との間の道については2つの敷地のつながりをつくりながらも安全面に配慮したアイデアが提案された。

C班

図書館敷地を「日常」、郷土館敷地を「歴史」と捉えたエリア全体の中でのゾーニングが提案された。また図書館敷地の屋外空間においては普段の使い方とイベント時の使い方の両面があることを踏まえ、広場や軒下空間のアイデアが提案された。郷土館敷地との間の道については時間帯を限定して歩行者専用道路とする案や車止め兼イスとなるようなファニチャーのアイデアも挙げられた。

D班

図書館敷地や周辺施設の屋外に季節の植物などに関する展示等を配置し、本での調べ学習や図書館利用を促すような仕掛けづくりのアイデアが提案された。また道の向かいの住宅への配慮や道路から図書館の中が見えにくい設え、かつて大手門があったことを示すサインを設置するなど敷地周辺の環境に対するアイデアも挙げられた。建物との関係については、中からも外が見え、縁側に座って休憩や読書などの過ごし方ができる設えが提案された。

E班

区切りが無い・固定化しない・段差が無いなどの工夫で、自由な使い方ができる、汎用性のある使い方ができる屋外空間とするアイデアが提案された。また建物については、図書館内部は本がたくさんある内観とすることや、大きな窓から外の景色が見える設えが提案された。また柴田町で活動する作家の作品展示など柴田町らしさを表現するアイデアも提案された。

3-2 町民ワークショップから考えられる新図書館の全体像

全4回のワークショップを通して得られた様々な意見を踏まえ、町民が求める新図書館の全体像に関するイメージや役割を以下のように整理しました。

- ・ 町民同士のコミュニケーションや居場所（本「も」読める場所）となる図書館
- ・ 町が誇る歴史・郷土を学べる場やアピールできる機能を整備し、しばたの郷土館とも連携しやすい図書館
- ・ 図書館に用が無い人でも図書館を訪れるきっかけとなる機能を整備し、子どもを含めた多世代が利用できる図書館

また、ワークショップで挙げられたひとつひとつのアイデアや意見については「8 資料編」にまとめており、これらもできる限り多くの意見が反映できるように各種の計画を行います。

4 施設計画とサービスの基本方針

4-1 基本コンセプト

基本構想で示した5つの基本方針を継承し、さらにワークショップでの町民との対話を通して得られた意見を集約し、本計画では柴田町が目指す図書館のコンセプトを以下のように定めます。図書館として誰もが利用しやすく、また住民の交流・体験・活動の場としても機能するパブリックスペースとなり、しばたの郷土館や船岡城址公園を含めた整備計画エリア全体の結節点として、まちと繋がる図書館の在り方を目指していきます。

基本コンセプト

1. 基本的なサービスの充実した図書館
2. コミュニケーションの場や自分の居場所となる図書館
3. 町の歴史を学ぶ場や郷土をアピールする機能を持つ図書館
4. 施設を訪れるきっかけを提供し、多世代が共に利用できる図書館
5. 子どもの心の豊かさを育み、共に成長する図書館

4-1-1 基本的なサービスの充実した図書館

現在の柴田町図書館では、限られたスペースで運営しているために十分に実施できていないサービスの拡充を図ります。様々な読書・学習ニーズに応える幅広い資料を収集し、集中して閲覧・学習するスペース、グループで声を出して使用できる学習室、分かりやすく興味を喚起する配架計画、おはなしの部屋の整備の他、今後ICタグシステムの導入による自動貸出機の導入や時間外の予約図書受取サービスについても検討します。

4-1-2 コミュニケーションの場や自分の居場所となる図書館

ワークショップの中で、居心地の良い図書館と並んで、日常的にコミュニケーションの場となる図書館のイメージが多く示されました。軽い飲食が出来るスペースや、声を出せるエリアを設けるなど、図書館でできるコミュニケーションの幅を広げていきます。同時に個人が居心地よく過ごせる場所となるように、静かに読書をするエリアなど、多様な閲覧スペースを用意して、個人が思い思いに過ごせる空間とします。

4-1-3 町の歴史を学ぶ場や郷土をアピールする機能を持つ図書館

隣接するしばたの郷土館との連携を図り、町の歴史や郷土に対する誇りを醸成し、アピールできるコーナーを設けます。町民だけでなく町外から訪れる人を含めて、図書館での情報発信を入口にして興味関心を引き込み、思源閣に保存・展示される専門性の高い郷土資料へと繋がる仕掛けを検討します。また郷土館の再整備方針と連携しながら、地域資料・郷土資料の取り扱いに関する分担を協議していきます。

4-1-4 施設を訪れるきっかけを提供し、多世代が共に利用できる図書館

日常的に図書館を訪れるきっかけとなるようなサービスの展開を図ります。高齢者や子育て世代に限らず、多様な町民の読書や関連する活動の場となるよう、特集展示や町民の活動の成果を展示するギャラリースペース、地域の情報発信を行います。また、町民が図書館運営に主体的に関わることができる仕組みづくりを促進し、地域コミュニティのハブとなる図書館の在り方を目指します。

4-1-5 子どもの心の豊かさを育み、共に成長する図書館

新図書館の中で拡張される児童書エリア、拡充される児童書・絵本を活用して、子ども読書活動を行い、子どもたちの想像力や心の豊かさを育てていきます。中高生についても学習スペースだけでなく、ヤングアダルト向け図書の充実を図り読書習慣の継続を支援します。また絵本やヤングアダルト向けの図書であっても、多世代の方に利用して頂きやすい環境としていきます。

4-2 必要な機能の整理

以上のサービスを実現するために必要な機能を4つのエリアに分けて表に整理します。

図 4-1 主要な機能・諸室一覧

	スペース名	主な用途	備考
一般書エリア			
	一般開架	一般資料の配架、閲覧、特集展示など	低書架の設置 (部分的な可動書架の設置)
	ヤングアダルト (YA) 開架	中高生向け資料の配架、閲覧	低書架の設置 (部分的な可動書架の設置)
	郷土資料コーナー	郷土資料の配架、閲覧	
	新聞・雑誌コーナー	新聞・雑誌の配架	新聞、雑誌専用書架 くつろげる家具の設置
	閲覧スペース	資料の閲覧	静かな読書エリアなど
	学習室	個人学習	静かに学習や読書が可能
	研修室	多目的に使用	50 人程度
	総合カウンター		
	対面朗読室	読書にハンディキャップがある方とその関係者、支援者	仕切られた部屋、ボランティア室を兼ねる、防音仕様
	予約本コーナー	予約本の受取	
児童書エリア			
	児童開架・閲覧スペース	児童書や絵本の配架、閲覧、特集展示など	低書架の設置
	おはなし室	おはなし会の開催、読み聞かせ	仕切られた部屋、普段は閲覧エリアとして活用
	調べ学習スペース	グループによる学習など	会話をしながら学習が可能
	子育て情報コーナー	子どもを遊ばせながら情報を得られる場所	
管理エリア			
	事務室、会議室	管理運営	作業スペース
	休憩室、更衣室		
	閉架書庫	資料保管	集密書架、作業スペース
	機械室 等		
情報・交流エリア			
	交流スペース	住民の交流	軽い飲食ができるスペース
	情報コーナー	地域の情報発信	

	ギャラリースペース	町民の活動の成果を展示	壁掛けなどの作品展示が可能な仕様
その他エリア			
	トイレ、児童用トイレ		
	授乳室		おむつ交換コーナー
	屋外読書コーナー		

4-3 蔵書規模目標

蔵書規模は、想定される施設規模の中で最大限に充実したサービスを継続できるよう、10万冊を目標とします。宮城県内の公共図書館における一人当たりの平均冊数2.50冊を基準に考えると、それを柴田町で達成するために必要な新図書館の蔵書冊数はおおよそ8万冊であり、これを満たす目標値となります。

一般書と児童書の比率は、現図書館の60%：40%程度を目安に検討していきます。また開架率については施設計画の中で許容される範囲内で、より多くの資料を開架エリアに配置するよう検討します。本計画の時点では、開架率を60%程度として設定します。

	現図書館 (R4年末)		新図書館 (目標値)	
開架	34,143	86.0%	60,000	60%
閉架	3,743	9.4%	40,000	40%
学校貸出用図書	1,831	4.6%	-	-
計	39,717	100.0%	100,000	100.0%

一般書	23,781	59.9%	60,000	60%
雑誌	1,737	4.3%		
児童書	14,199	35.8%	40,000	40%
計	39,717	100.0%	100,000	100.0%

(単位：冊)

(単位：冊)

5 施設の計画概要

5-1 敷地利用計画

5-1-1 敷地概要・法的条件の整理

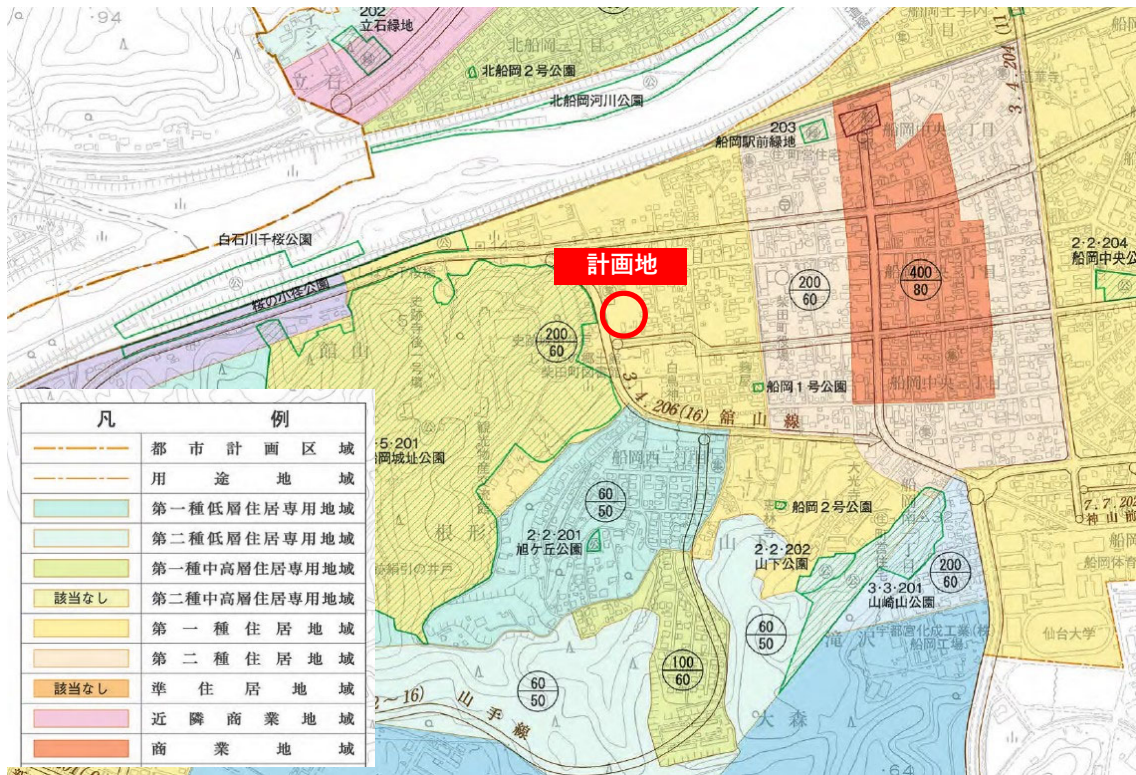
計画地の敷地条件として、関連する主な法令等を示します。

図 5-1 敷地概要・関連法令等

計画地	柴田町船岡西一丁目4 2 2 番地1 及び4 2 2 番地6 地内	
敷地面積	約 4,875 m ²	
都市計画 地域地区	都市計画区域	都市計画区域内（非線引き都市計画区域）
	用途地域	第1種住居地域（容積率200%/建蔽率60%）
	防火地域	指定無し
	22条区域	区域内
	斜線制限	【道路斜線】1：1.25 適用距離20m 【隣地斜線】1：1.25（+20m） 【北側斜線】なし
	日影規制	5m < L < 10m：5時間 10m < L：3時間 測定面：平均地盤面：+4m
	その他	-
法令等	景観計画	「仙南地域広域景観計画」 「柴田町景観条例」
	中高層	独自に定める条例は無し
	バリアフリー	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」 「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例（宮城県）」
	遺跡	「文化財保護法」 隣接する船岡城址公園が遺跡に指定されているため、 計画地における遺跡の有無の確認を要する（※1）
	その他	・都市再生特別措置法（88条・108条） →計画地が都市機能誘導区域・居住誘導区域内のため届出不要 ・建築基準法 ・消防法 ・開発許可（都市計画法） →図書館法による図書館は公益施設のため許可不要 ・図書館法 ・宮城県建築基準条例 ・宮城県建築基準法施行細則・土壌汚染対策法

※1：試掘による調査実施済み。遺跡は確認できなかった。

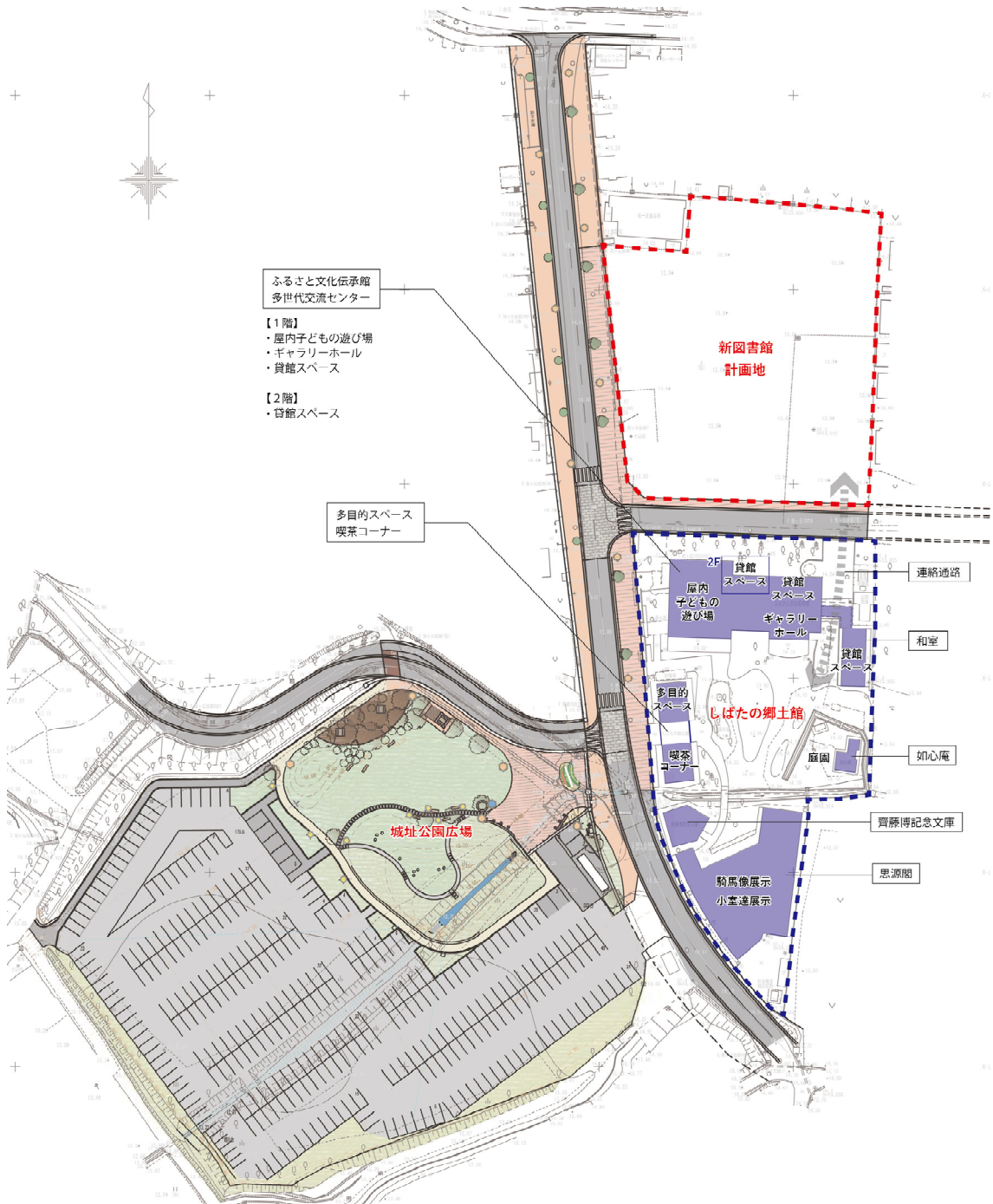
図 5-2 柴田町都市計画図



5-1-2 周辺配置図及び関連計画の整理

計画地に隣接する周辺道路、敷地南西側に位置する現船岡城址公園駐車場及びしばたの郷土館駐車場は再整備（令和6～9年度に整備予定）が計画されています。新図書館の計画にあたっては、整備後の道路や公園との関係性を踏まえた検討が必要となります。また、隣接するしばたの郷土館のリノベーション計画も予定されており、新図書館との連携を視野に入れて、基本設計段階から相互に計画内容のすり合わせを行うことが必要です。

図 5-3 周辺配置図（道路・公園整備後のイメージ）



5-1-3 災害条件の確認

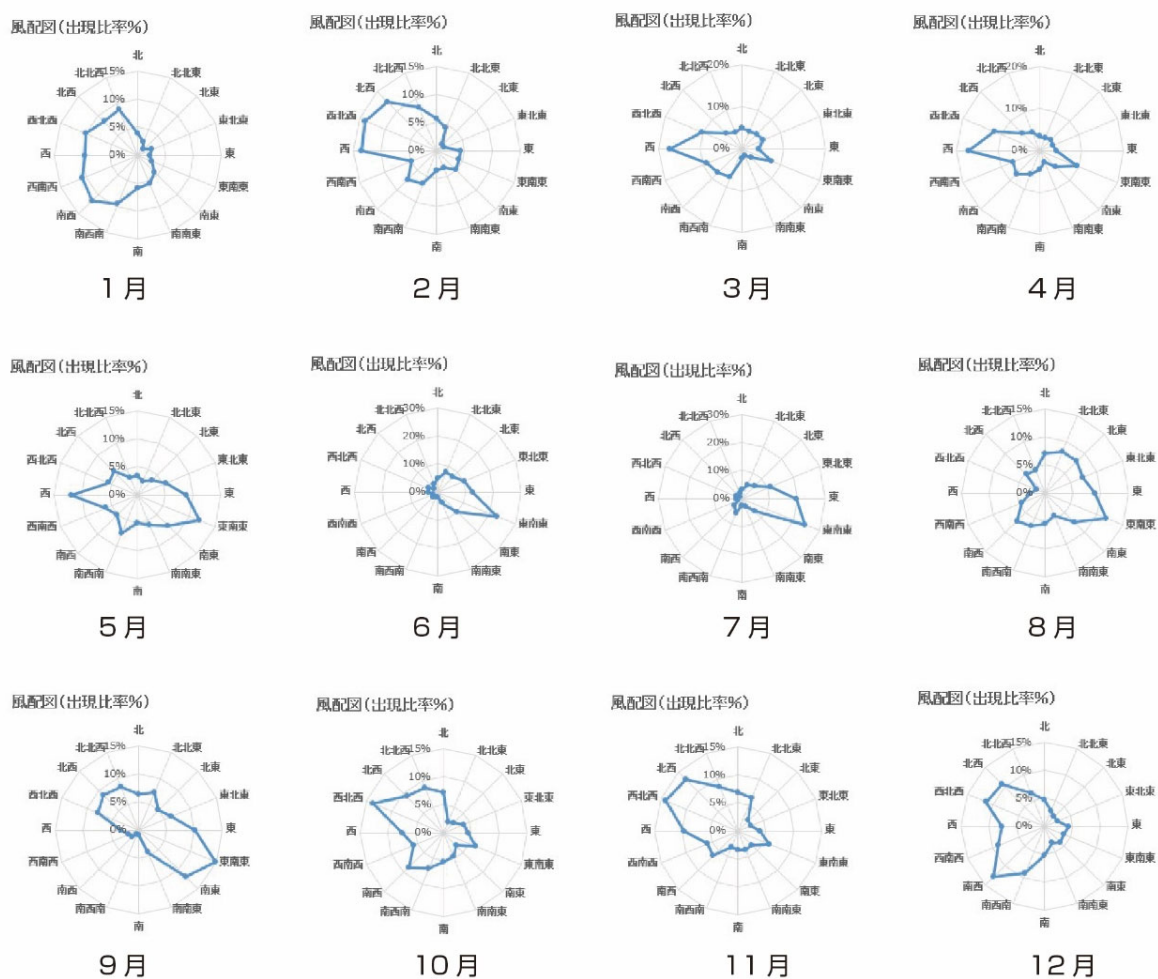
柴田町は、市街地のほぼ全域が河川氾濫時の洪水浸水想定区域に該当しており、計画地についても想定される浸水深が0.5m～3m未満のエリアとなっています。災害リスクに対する取り組み方針については立地適正化計画の中で示されており、避難計画の強化や防災減災事業の促進等が計画されています。

5-1-4 気象条件の確認

風向

柴田町の季節ごとの風向は、初夏から秋にかけては東南東、冬から春にかけては南西～西北西からの風が多いことが分かります。開口部等の計画においては季節ごとの風向きを考慮した計画とします。

図 5-4 風配図



積雪

柴田町は東北地方の中でも比較的積雪の少ない地域と考えられます。そのため、寒冷地であることを十分に考慮した計画としたうえで、積雪対策については基本的な対策を講じる計画とします。

<参考>

条例で定める構造計算上の垂直積雪量：40 cm（1cm 毎に平方メートルにつき 20N）

5-2 建築計画

5-2-1 規模・構造形式

延べ面積は、工事費予算と近年の同規模・類似図書館の工事単価を踏まえ、約1,500㎡程度とします。また、バリアフリーや管理運営の観点において誰にでも使いやすく、屋外空間とのつながりもつくりやすい平屋建てとします。構造形式については、機能性・経済性等を考慮し基本設計で検討します。

5-2-2 敷地利用計画・施設の構成イメージ・施設内ゾーニング計画

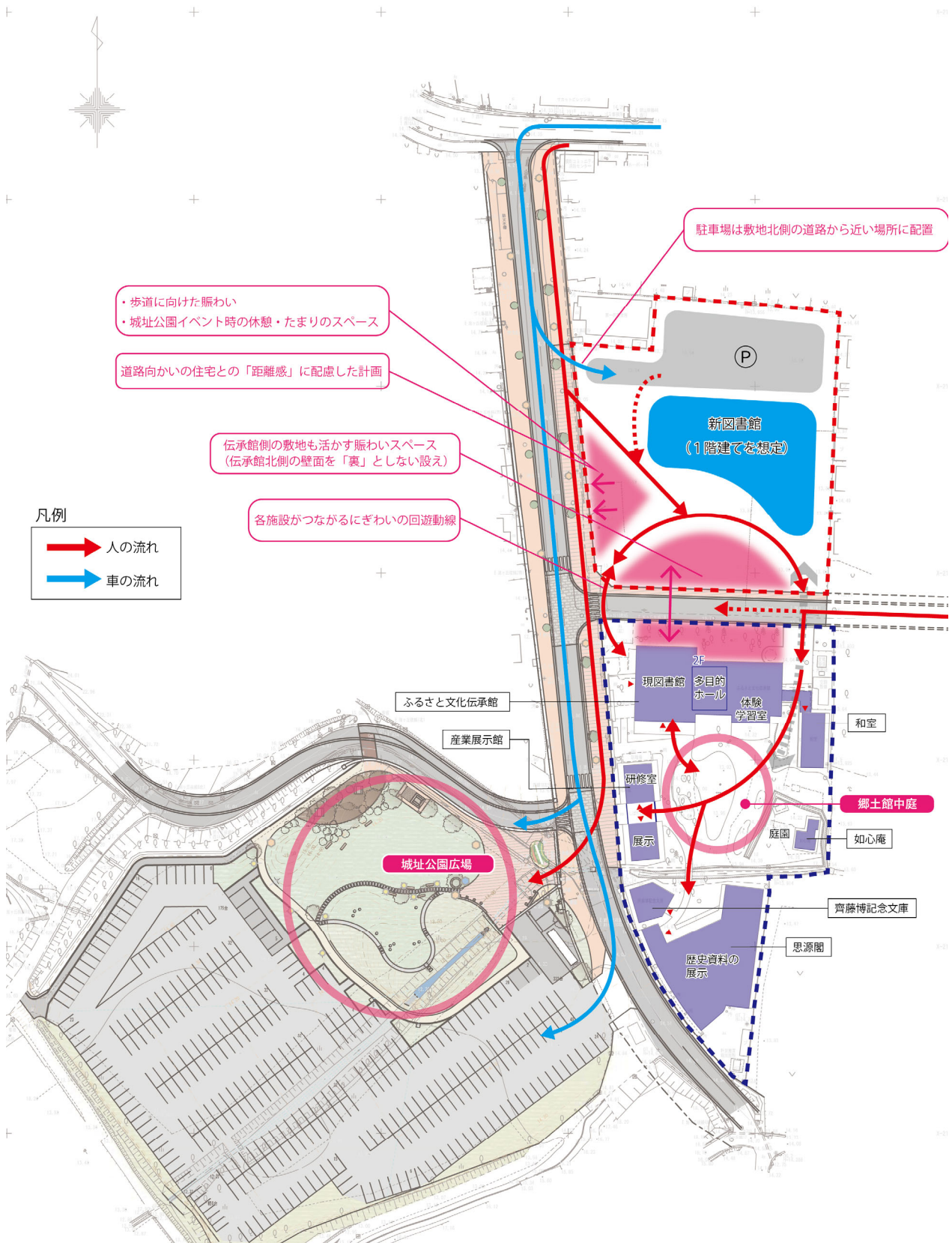
敷地利用計画

建物配置の考え方：周辺の人の流れや、しばたの郷土館とのつながり、整備予定の敷地西側の前面道路との関係性を考慮して、屋外で活動できる空間を設け、建物は道路から余裕を持ってセットバックした配置とします。

駐車場配置の考え方：新図書館へ車で来館する場合は北側の県道からアクセスする利用者が多いと想定し、敷地の北側に駐車場を配置します。日常的な図書館利用者数が増加することや必要な職員数を考慮して、台数は合計で50台程度を確保します。

動線の考え方：新図書館としばたの郷土館の連携が計りやすいように、両敷地をつなぐ回遊動線を設けます。この回遊動線は、新たに整備される城址公園広場や柴田町内のまち歩きルートともつながる形で整備します。

図 5-5 敷地利用計画

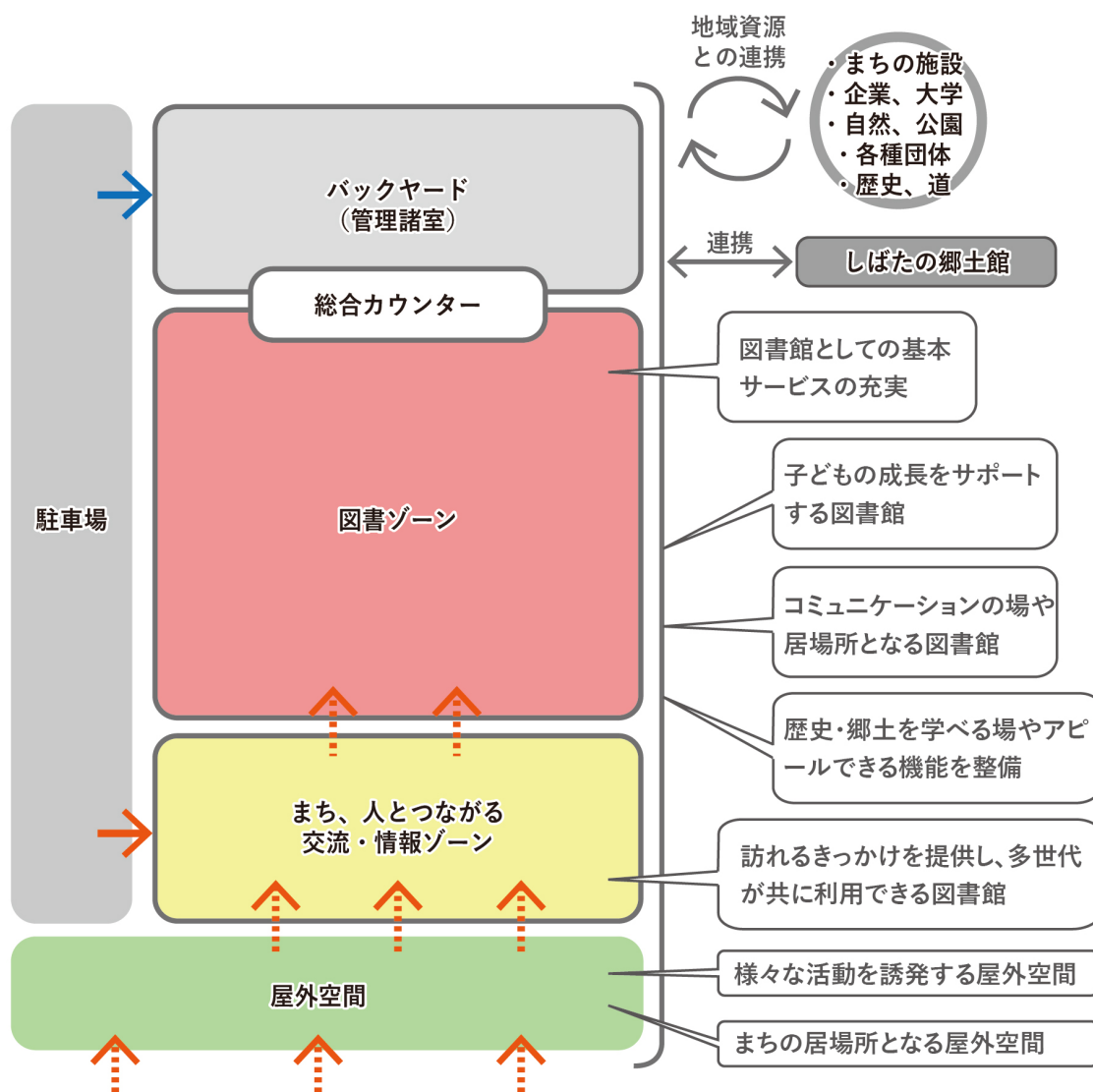


施設の構成イメージ

4-1で示した5つの基本コンセプトを具現化する施設の構成イメージを以下に示します。様々な活動を誘発し、町民の居場所となる屋外空間に面して、施設を訪れるきっかけの提供や、コミュニケーション・交流の場としての可能性を広げる「まち・人をつながる交流・情報ゾーン」を整備します。また「まち・人をつながる交流・情報ゾーン」と連続する形で基本サービスの充実した「図書ゾーン」を整備します。

施設全体としては、子どもの成長をサポートする役割や、町の歴史・郷土を学び、アピールする役割を担います。

図 5-6 施設の構成イメージ



施設内ゾーニング計画

敷地利用計画（図5-5）と施設の構成イメージ（図5-6）に加え、第3回・第4回ワークショップで出された意見を踏まえ、施設内のゾーニングを図5-7のように整理しました。このゾーニング計画の主旨は以下の内容です。（ワークショップでの意見と計画方針の関係は、8 資料編に示しています。）

まち、人とつながる交流・情報ゾーン

- ・ エントランスホールを兼ねたエリアに、訪れる人の興味関心をひきやすい機能を配置する。（展示スペース・町の情報スペース・イベントスペース・地域・郷土資料の紹介コーナー等）
- ・ イベントなど多目的に利用でき、飲食可能なスペースを配置し、屋外空間との連携もしやすい計画とする。
- ・ 図書ゾーンを利用する目的ではない人も入りやすい出入口を計画し、敷地全体の回遊動線を活かす平面計画とする。

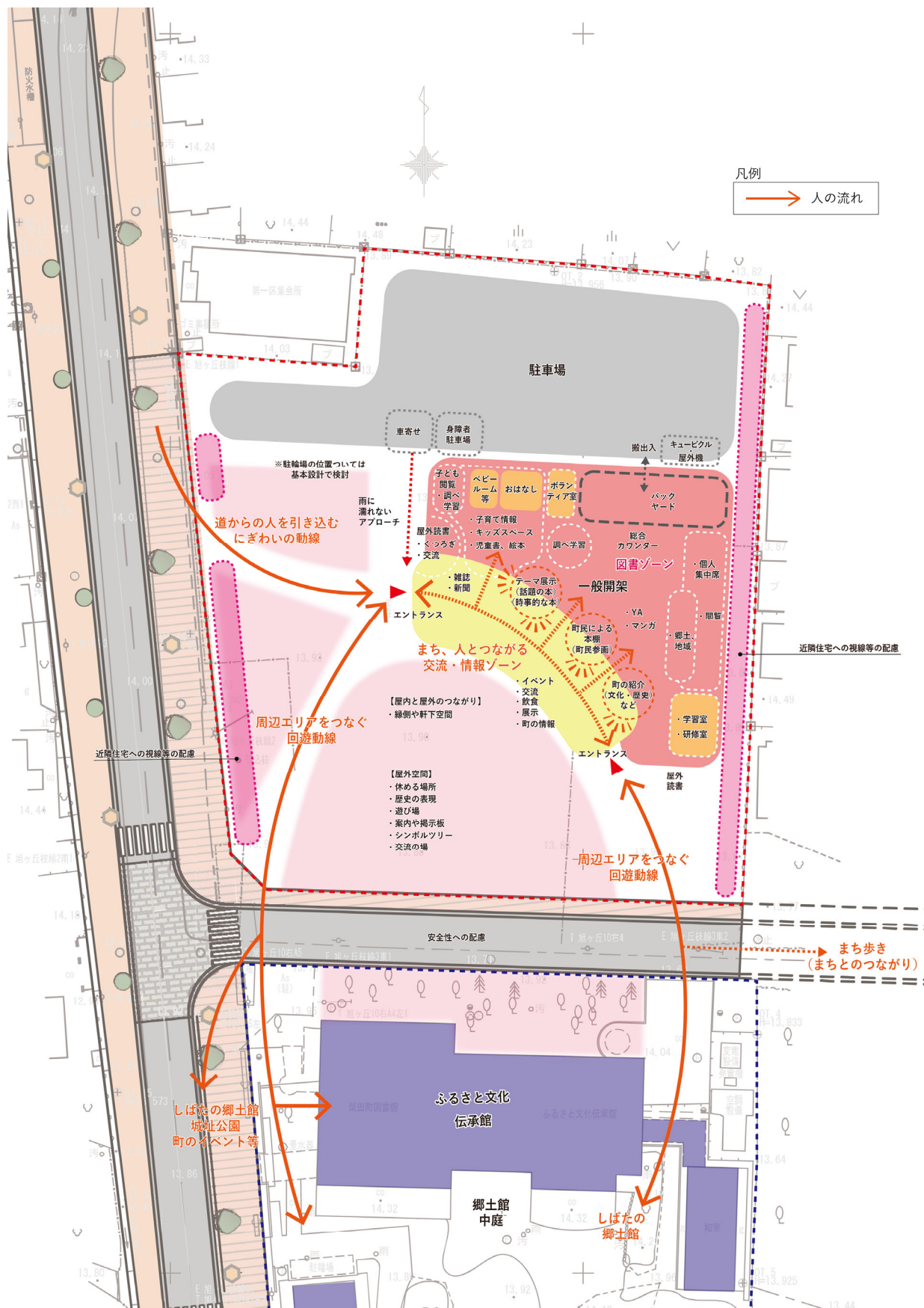
図書ゾーン

- ・ 「まち、人とつながる交流・情報ゾーン」と「図書ゾーン」の間に本への興味を喚起するコーナーを配置する。（町の文化・歴史や、話題の本等を展示するテーマ展示コーナー・町民が使い方を考えられる本棚コーナー等）
- ・ 声を出していいエリアと静かなエリアを設定し、様々なニーズに対応する。
- ・ 個人スペースや学習スペースは静かなゾーンとしてまとめる。
- ・ 児童エリアは、声を出してもよいスペースとしてまとめる。
- ・ 地域・郷土資料コーナーはしばたの郷土館との連携を考慮した配架とする。
- ・ 地域・郷土資料の近くには閲覧スペースを配置する。
- ・ 子どもを連れてきた親にとっても本を楽しめる、関心のある本が見つかる配架計画。
- ・ 落ち着いて子どもが本を楽しめる空間の設え、かつ見守りやすい配置計画。
- ・ グループ学習やPCの利用も可能な学習スペースを計画する。
- ・ わかりやすく、立ち寄って相談しやすい位置に総合カウンターを計画する。
- ・ ボランティア室は対面朗読室を兼ねた部屋として計画する。

屋外空間

- ・ 車寄せ等から出入口まで雨に濡れないアクセス経路を計画する。
- ・ 町の気候、風土、文化に適した植栽を選定する。
- ・ 休憩できる場所や遊び場を配置する。
- ・ 敷地の特徴的な歴史を表現する外構やサイン計画を行う。
- ・ 様々な情報を掲示できる機能を設ける。

図 5-7 ゾーニング計画



5-2-3 諸室面積表

4章で整理した基本コンセプトとそれに必要な機能、蔵書規模目標を踏まえ、全体の延床面積1,500㎡の内訳について諸室面積の目安を示します。実際の各エリアや諸室のそれぞれの面積は設計段階で検討を行います。

図 5-8 諸室面積表

		面積	収容冊数	備考
一般開架エリア	一般開架・閲覧スペース	295 ㎡	32,500 冊	20 席程度
	YA 開架・閲覧スペース	50 ㎡	2,500 冊	16 席程度
	郷土資料コーナー	20 ㎡	1,000 冊	6 席程度
	研修室	75 ㎡		50 名程度
	学習室	30 ㎡		15 席程度
	新聞・雑誌コーナー	20 ㎡		6 席程度
	対面朗読室	15 ㎡		ボランティア室を兼ねる
	予約本コーナー	15 ㎡		
	廊下等	25 ㎡		
		545㎡	36,000冊	
児童図書エリア	児童開架・閲覧スペース	190 ㎡	24,000 冊	12 席程度
	おはなし室	40 ㎡		20 人程度
	調べ学習スペース	20 ㎡		
	子育て情報コーナー	25 ㎡		
	トイレ・廊下等	25 ㎡		児童用トイレ・授乳室の設置
		300㎡	24,000冊	
スペース等バック	事務室・作業スペース	75 ㎡		15 人程度
	会議室・休憩室・更衣室	30 ㎡		
	閉架書庫	80 ㎡	40,000 冊	
	機械室	75 ㎡		
	トイレ・倉庫・廊下等	20 ㎡		
		280㎡	40,000冊	
情報交流エリア	エントランスホール	165 ㎡		交流スペース、 ギャラリースペース等
	情報コーナー	120 ㎡		
	トイレ・廊下等	90 ㎡		
		375㎡		
合計		1,500㎡	100,000冊	

5-2-4 ユニバーサルデザインの方針

子どもからお年寄り、障害のある方、小さな子ども連れの方など、誰にでも使いやすい施設とします。主な配慮事項としては、下記に示した内容を踏まえて計画を行います。

対象	計画の方針
施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ・平屋建てとして、単一フロアでわかりやすく移動しやすい計画とする。 ・見通しのよい空間構成とする。 ・主要な出入口は車椅子利用者でも余裕を持って通れる幅を確保する。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・身障者駐車場は建物の入口近くに設置する。 ・車寄せからのアプローチは雨に濡れない設えとする。
総合カウンター	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なハイカウンターに加え、車いす利用者や小さな子どもも使いやすいようローカウンターを設置する。
書架	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも使いやすい段数（高さ）とする。 ・書架同士の間隔は人と車椅子が余裕を持ってすれ違うことができる寸法とする。
トイレ等	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応の多目的トイレを設置する。 ・子ども連れ利用者に配慮し、児童用トイレや授乳室を設置する。
サイン	<ul style="list-style-type: none"> ・各種サインは利用者の動線を踏まえながら、わかりやすい位置に設置する。また色づかいや文字の大きさにも配慮する。

5-3 設備計画

設備計画においては下記の点に留意し計画を行います。

- ・省エネルギーや環境に配慮した計画とします。
- ・図書館として快適な空間となるように計画します。
- ・維持管理が容易で将来の更新が行い易い計画とします。

5-3-1 電気設備計画

1) 受変電設備

- ・敷地西側道路より、高圧6.6kV1回線を架空で引込み、屋外キュービクルまで地中埋設で配線する計画とします。

2) 電灯コンセント設備

- ・部屋の用途に適した照度設定で、LED照明器具を選定します。
- ・建築基準法に準拠し蓄電池内蔵型の非常照明を設置します。
- ・適宜コンセントを設置します。

3) 幹線・動力設備

- ・屋外キュービクルから、各所電灯盤動力盤まで幹線ケーブルを敷設します。
- ・環境に配慮したエコケーブルを採用します。

4) 電話LAN設備

- ・敷地西側道路より電話線を架空で引込み、MDFまで空配管を敷設します。
- ・館内ネットワークを構築し、施設内にアクセスポイントを計画します。

5) 誘導支援設備

- ・外部インターホンを設置し、事務室に親機を計画します。

6) テレビ共同受信設備

- ・屋上にアンテナを設置し、各所のTV端子までの配管配線を敷設します。

7) 放送設備

- ・館内放送を目的とした業務放送用アンプを事務室に計画します。

8) 自動火災報知設備

- ・消防法に準拠し感知器を設置し、事務室に受信機を計画します。

9) 監視カメラ設備

- ・外部からの出入り口に監視カメラを設け、事務室に録画装置、モニターを計画します。

5-3-2 機械設備計画

1) 空調設備

- ・省エネルギーに配慮して、高効率機器の設置や個別制御性などに配慮した計画とします。
- ・図書館の室内空間に配慮して、騒音が少なく快適な空間となるように計画をします。
- ・利用時間や用途を考慮した計画とします。

2) 換気設備

- ・居室は建築基準法に準拠した計画とし、省エネルギーに配慮して計画をします。

3) 給水設備

- ・直結直圧式にて、必要箇所へ給水を行います。

4) 排水設備

- ・汚水、雑排水は下水道本管へ放流とします。なお、雨水は別系統にて計画とします。

5) 給湯設備

- ・必要箇所に給湯を行います。

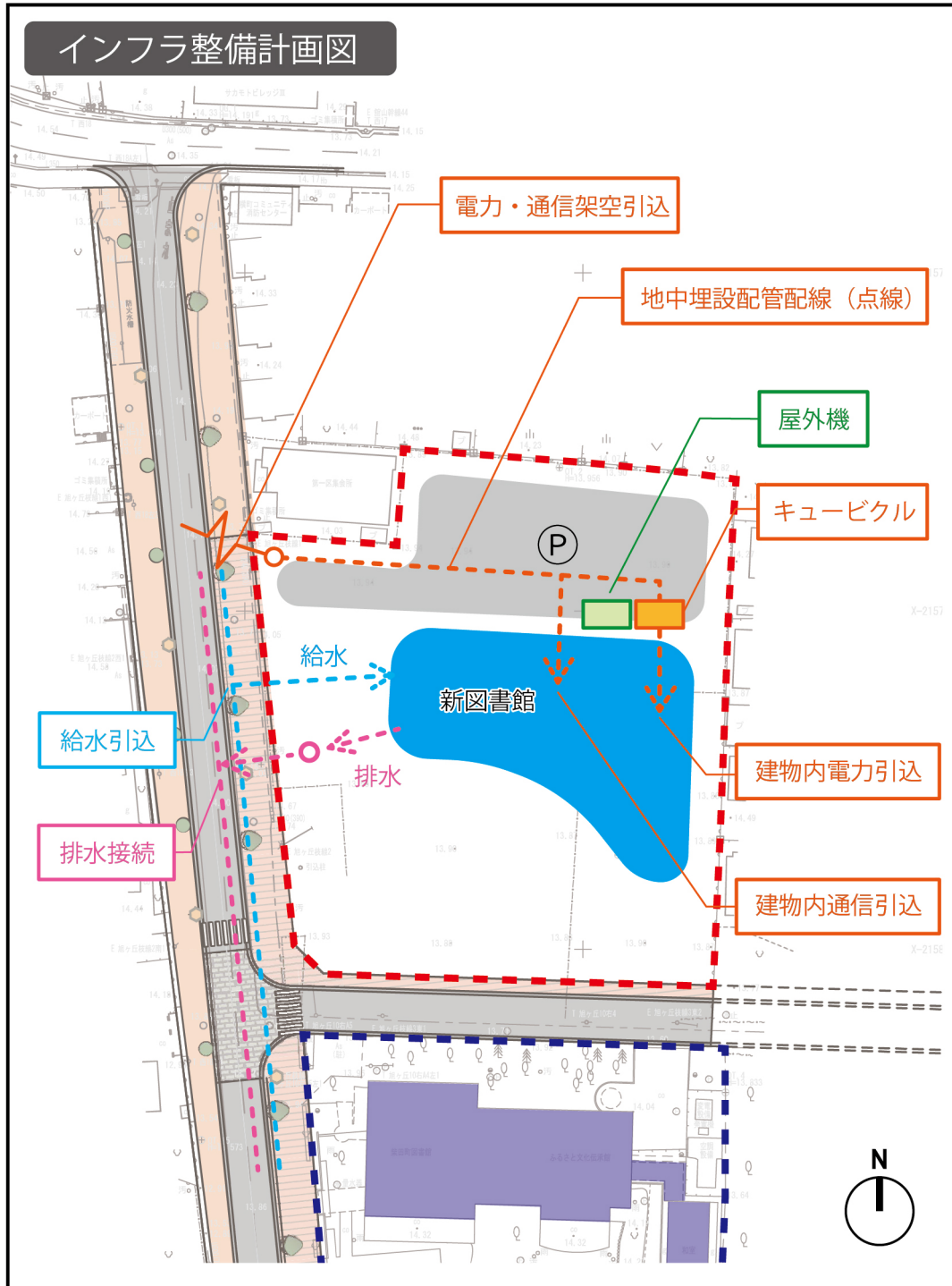
6) 衛生器具設備

- ・バリアフリーに配慮した計画とします。
- ・省エネルギーに配慮して節水型器具や用途に応じた器具を設置します。

7) 消火設備

- ・消防法に準拠及び所轄消防署と協議により、必要な消火設備を設置します。

図 5-9 インフラ整備計画図



6 管理運営方針

6-1 開館時間・休館日

現図書館と同様の運営を継続して行います。

開館時間	平日	10:00～19:00
	土曜・日曜・祝日	10:00～17:00
休館日	月曜日（月曜日が祝日のときはその翌日） 第4木曜日（館内整理日） 年末年始 蔵書点検にともなう特別整理期間	

6-2 管理運営体制

新図書館では既存の図書館サービスに加え、情報発信・交流に関するサービスや新たなサービスを提供します。また、1,500㎡と現図書館の面積の約5倍の広さとなるため、それらを踏まえた管理運営体制を構築する必要があり、効率的な運営を実現するため、I Cタグシステムの適切な活用等を検討し最大限の効率化を図ります。

6-3 町民が参加する運営の仕組みづくり

新図書館に求められるサービスを実現するために、町民や図書館ボランティア、小中学校、しばたの郷土館など周辺地域の関連団体等と協働して町民参加を促すなど、開館までの継続的な取組みを行い、計画的に準備を進めていくことが重要になります。

7 事業計画

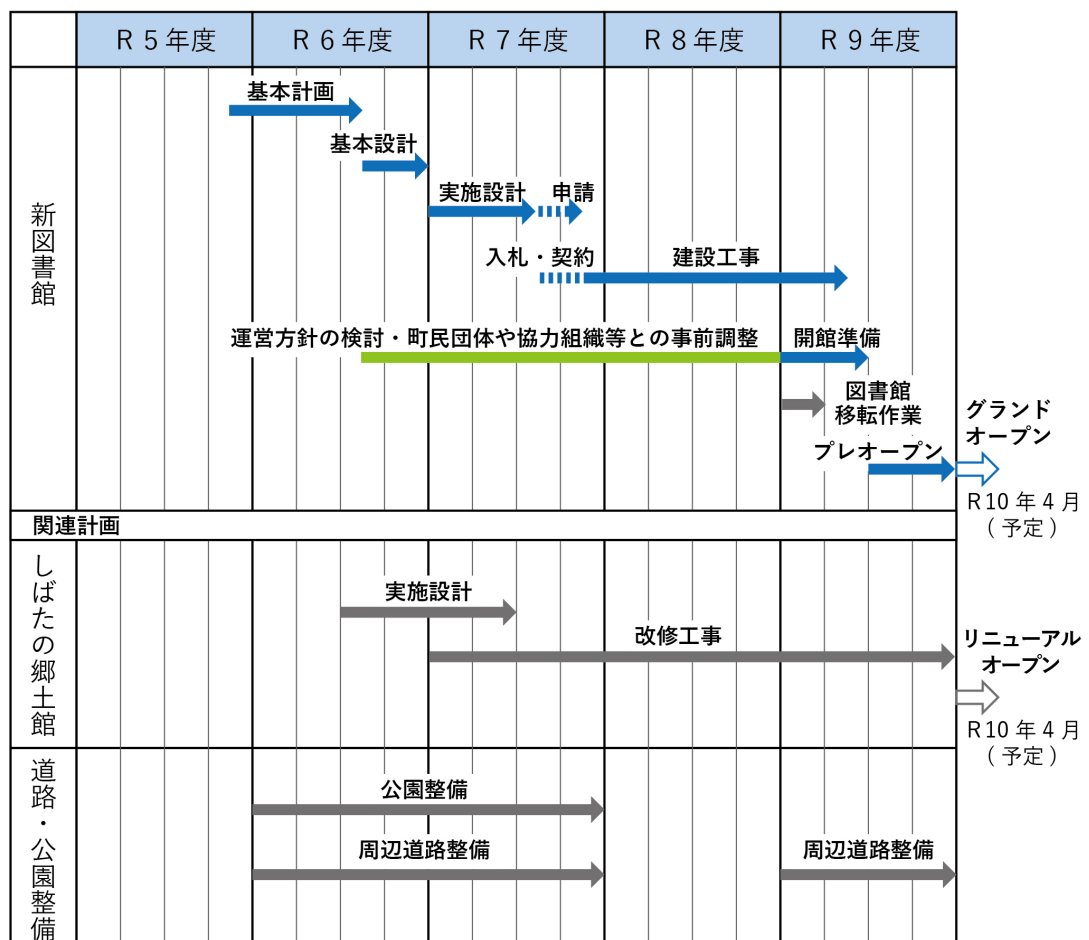
7-1 概算事業費

都市再生整備計画では事業費は13.5億円と定められており、これには設計監理料、工事費（建物・外構・書架棚）が含まれています。（その他の図書館システムを含めた什器備品は別途）しかしながら昨今の物価上昇の影響により、前記の規模を満たすためには事業費が増額となることを見込まれます。

7-2 整備スケジュール

新図書館整備においては、令和6年度に基本設計、令和7年度中に実施設計を完了し、令和8年2月から令和9年7月にかけて建設工事を行う予定となっています。

図7-1 整備スケジュール



8 資料編

8-1 ワークショップ 意見一覧

8-1-1 第1回ワークショップで挙げた意見一覧

A 班		👍
本・学び		
	沢山本がある図書館	3
	しっかり調べ物ができる図書館	3
	他の図書館の本を取り寄せできる図書館	2
	古文書がある図書館	3
	郷土資料がある図書館	2
	自習室（PC 使用も可）Wi-Fi がある図書館	5
コミュニケーション・ゾーニング		
	にぎわいとしずかさがある図書館	3
	にぎやかで静かな図書館	1
	読書をした後にコミュニケーションできる図書館	1
	仲間とにぎやかにしゃべることのできる図書館	2
	おしゃべりしても良い図書館	2
	（コーナーで）飲食しても良い図書館	1
	軽く飲食できる図書館	4
居心地・環境		
	図書館の外庭を楽しめそうな図書館	3
	ポーツと外をながめていても良い図書館	1
	自然を感じることのできる図書館	3
	迷路のような図書館	1
	寝転びながら読書しても良い図書館	1
サービス		
	禁止事項がない図書館	2
	レファレンス相談ができる図書館	2
イベント・連携		
	住民企画のイベントができる図書館	3
	（雰囲気）楽しい図書館	-

	ワクワクする楽しい図書館	2
	おもしろい（お楽しみイベント、コンサート、美術）図書館	3
	コンサートのできる図書館	3
	住民発表の場がある図書館	-
	絵本のお菓子を作ることのできる図書館	2

注記) ☑欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

B 班		☑
本・学び		
	他の図書館にない面白い本がある図書館	3
	他の図書館にない魅力的な展示のある図書館	1
	自慢できる図書館	1
	柴田町の歴史・文化に関する資料が一か所ですべて判る部屋がある図書館	1
	地域誌、柴田町の充実したものがない図書館	2
	勉強ができる図書館	2
	勉強できる図書館	1
コミュニケーション・ゾーニング		
	子どもたちと分かれて大人だけで見れる図書館	1
	静かなスペースがある図書館	-
	子どもに大きな声でなければ絵本を読んであげてもよい図書館	2
	ある程度声を出すことができる図書館	0
	会話してもよい図書館	0
	ゆっくり会話してもよい図書館	1
	アルコール以外のものを飲んだりしてもよい図書館	-
	カフェがある図書館	2
居心地・環境		
	いろんな椅子がある図書館	2
	段差がない図書館	-
	特徴的な（たてもの）図書館	-
	圧迫感がない図書館	-
	広い図書館	2
	階段がない図書館	-
	誰でも気軽に来やすい図書館	3
	誰でも利用できるような図書館	2


	身近な図書館	-
	家族で過ごすことができる図書館	-
	少しくらい昼寝ができる図書館	-
	ソファでゆっくりしても良い図書館	-
	寝っ転がって本を読むことができる図書館	-
	ゆっくりできる図書館	1
	長時間いれるような図書館	-
子ども		
	マンガ本がある図書館	1
	子どもの図書コーナーがある図書館	2
	子どもたちがかいた壁画がある図書館	1
サービス		
	夜に貸出してもよい図書館	-
	レファレンスよくできるサービスがある図書館	4
	蔵書の検索機がある図書館	1
	貸し出しの資料が多くない図書館	-
	視聴覚ができる図書館	2
イベント・連携		
	ワークショップができる図書館	1

注記) ☺欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

C 班		☺
本・学び		
	参考書がある図書館	-
	新たな意見がある図書館	-
	勉強スペースがある図書館	-
コミュニケーション・ゾーニング		
	歩く音&騒音がない図書館	3
	おしゃべりしてもよい図書館	1
	友達と話してもよい図書館	-
	声を出してもよい図書館	-
	飲食してもよい図書館	2
	お茶できる図書館	1

	お菓子の自販機がある図書館	1
居心地・環境		
	木がある図書館	3
	図書館の中に草花がありその名を知れる図書館	4
	自然と親しみたい図書館	1
	のんびり（読んだり休んだり）できる図書館	1
	ゆっくりできる図書館	1
	お昼寝してもよい図書館	2
	サボってもよい図書館	1
	あたたかい図書館	-
	壁がない図書館	1
	自由な図書館	-
	高い本棚がない図書館	3
	広い空間がある図書館	-
子ども		
	子育てができる図書館	2
	子どもが泣いても慌てなくてよい図書館	1
サービス		
	面白かった本を注文できる図書館	2
イベント・連携		
	高校と連携してもよい図書館	1
	スポーツができる図書館	-
まちとの繋がり		
	町が活性化（健康づくり、環境づくり、限界集落にならない）できる図書館	1
	スーパーがある図書館	-
	料理上達できる図書館	-
	災害に強い（特に水害）図書館	1

注記)  欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

D 班		
本・学び		
	郷土史がまとまっていて調べることができる図書館	4
	柴田町独自の特色がある図書館	3

	中高生が勉強できるスペースがある図書館	2
コミュニケーション・ゾーニング		
	音がある図書館	3
	子どもの声が聞こえてもよい図書館	1
	静かにしろと圧力がない図書館	1
	話をしてもよい図書館	1
	会話をしてもよい図書館	2
	出会いがある図書館	1
	交流できる図書館	1
	ボードゲームがある図書館	2
	円卓がある図書館	1
	お茶できる図書館	1
居心地・環境		
	きれいな図書館	1
	天井がない図書館	2
	明るい図書館	3
	明かるい図書館	1
	住みたいような図書館	2
	ぼーっとできる図書館	1
	だらだらしてもよい図書館	-
	ゆったりできる図書館	1
	たたみがある図書館	1
	かおりがある図書館	-
	開放的な図書館	1
	笑顔がある図書館	-
子ども		
	(子ども向け? な) お芝居ができる図書館	1
	子どもが自由にできる図書館	2
サービス		
	コンパクトな(使いやすい、機能的)図書館	-
	Wi-Fi がある図書館	3
	作業ができる(パソコン・学習)図書館	2
	DVD や CD がある図書館	2
	月曜日が休みでない図書館	3
イベント・連携		

	読書会ができる図書館	1
まちとの繋がり		
	移動図書館がある図書館	4

注記) ㊦欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

E 班		㊦
本・学び		
	あらゆる資料や蔵書がある図書館	1
	沢山本がある図書館	1
	一人机がある図書館	1
	勉強ができる図書館	3
コミュニケーション・ゾーニング		
	静かな図書館	-
	友人同士で声出し話し合いができる図書館	1
	おしゃべりしてもよい図書館	-
	司書さんと仲良くできる図書館	-
	食事してもよい図書館	4
	ドリンクコーナーで飲食もできる図書館	1
	ワーク&カフェスペースがある図書館	1
	喫茶コーナーがある図書館	1
居心地・環境		
	自然光で読書のできるような図書館	-
	森の中にあるような図書館	4
	ぼーっとしてもよい図書館	1
	本を読まなくてもよい図書館	-
	気軽に来館してもよい図書館	1
	いつでもいきたい図書館	2
	困ったときに行きたい図書館	-
	窓が大きい図書館	1
	間仕切りがない図書館	1
子ども		
	放課後児童クラブがある（みんなで宿題）図書館	-
	子どもの遊具がある図書館	3
	幼児に読み聞かせのできるコーナーがある図書館	2

	元気いっぱいな子どもがいてもよい図書館	3
	子育てママが安心して通うことのできる図書館	3
	子どもの城がある図書館	3
	絵本の部屋がある図書館	1
サービス		
	専門職（司書資格）がある館長さんがいる図書館	1
	職員（司書）さんが親しみやすい図書館	1
	Wi-Fi、電源（有料）が利用できる図書館	-
イベント・連携		
	柴田町の特色を生かす図書館	3
	美術（絵画）や工芸品など展示してある図書館	2
	アートな図書館	4
まちとの繋がり		
	自分で移動できる中・高・大学生に便利な図書館	1
	配達してもらえたり本の集配できる図書館	2
	移動図書館（ブックモバイル）がある図書館	1
	遠距離の住民が老・幼のハンディ（足が弱い）のなく出向くことのできる図書館	2

注記) 凸欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

A班

ワークショップで学がったアイディア一覧

本・学び	沢山本がある 図書館	シっかり調べ物 ができる 図書館	他の図書館の本を 取り寄せてくれる 図書館	古文書 がある 図書館	紙上増刊 がある 図書館	自習室 (PC使用も可) Wi-Fiがある 図書館		
	コミュニケーション ・ゾーニング	にぎわいと しずかさ がある図書館	にぎやかで 静かな 図書館	読書をした後に コミュニケーション できる図書館	仲間とにぎやかに しゃべることの できる図書館	おしゃべり しても良い 図書館	(コーナーで) 飲食しても良い 図書館	軽く飲食 できる 図書館
	居心地・環境	図書館の外観を 楽しめそうな 図書館	ホットと外を ながめていても 良い図書館	自然を感じる ことのできる 図書館	連絡のような 図書館	事足りながら読者 しても良い図書館		
	子ども							
	サービス	禁止事項 がない 図書館	レンガレンス 相談ができる 図書館					
	イベント・連携	住民企画のイベント ができる図書館	(空気が) 楽しい図書館	フォトログする 楽しい図書館	おもしろい (お楽しみイベント コンサート、美術) 図書館	コンサート のできる図書館	住民発表の場 がある図書館	絵本のお菓子 を作ることの できる図書館
	まちとの繋がり							

凡例

- 読書の充実
- 質士材料
- 予約・抱架
- 読書展・ゾーニング
- コミュニケーション
- 読書できるスペース
- 自然環境
- 居心地の良さ
- 子ども
- サービス
- イベント・連携
- まちとの繋がり
- 効果

B班

ワークショップで学がったアイデア一覧

本・学び	他の図書館にない面白い本がある 図書館	他の図書館にない魅力的な展示がある 図書館	自借できる 図書館	栗田町の歴史・文化に関する資料が利用できるすべて 図書館	地域誌 栗田町の歴史したものがない図書館	勉強ができる 図書館	勉強できる 図書館		
コミュニケーション・ソーシング	子供たちと分かれ大人だけで見れる 図書館	静かなスペースがある 図書館	子供に大きな手でなければ絵本を読んであげてもよい 図書館	ある程度声を出すことができる 図書館	余話してもよい 図書館	ゆっくり会話してもよい 図書館	アルコール以外のものを飲んだりしてもよい 図書館	カフェがある 図書館	
居心地・環境	いろんな椅子がある 図書館	暖かがない 図書館	特徴的な(たてもの) 図書館	庄厳感がない 図書館	広い 図書館	階梯がない 図書館	誰でも気軽に誰でも気軽に 図書館	誰でも利用できるような 図書館	身近な 図書館
子ども	マンガ本がある 図書館	子供の図書コーナーがある 図書館	子どもたちがかわいい場面がある 図書館						家族で過ごすことができる 図書館
サービス	夜に貸出してもよい 図書館	レファレンスよくできるサービスがある 図書館	蔵書の特長がある 図書館	貸し出しの資料が多くない 図書館	視聴室がでまる 図書館	少しくらい読書ができる 図書館	ソファでゆっくりしてもよい 図書館	読んだ本を返すことができる 図書館	ゆっくりできる 図書館
イベント・連携	ワークショップができる 図書館								

まちとの繋がり

- 凡例
- 蔵書の充実
 - 質上資料
 - 学内・他館
 - 質低い・劣質
 - コミュニケーション
 - 勉強できるスペース
 - 自然環境
 - 居心地の良さ
 - 子ども
 - サービス
 - イベント・連携
 - まちとの繋がり
 - 新築

8-1-2 第2回ワークショップで挙げた意見一覧

A班		👍
本・学び		
	郷土資料は、郷土館とのすみわけをして、住民への公開に努める	5
	全文英語、韓国語、その他外国語で書いてある本、小説【観光客】	2
	知の宝庫	-
コミュニケーション・ゾーニング		
	図書館の外にテーブルやイスを沢山おいて、飲食しながらおしゃべりできるようにする	1
	もみの木図書館として、柴田の歴史を伝えていく	1
	森の中の図書館のイメージ	1
	中・高生が自習できる場所が必要	3
	自習室は、平日の日中は高齢者専用となる	-
居心地・環境		
	図書館がたのしいと思う場所	-
	家のように過ごせる（飲食できる・寝転べる）図書館	-
	何でも話せる友達が出来ればいいです	-
	季節ごとの花が咲いている花壇がある	-
子ども		
	0才から18才までの子どものコーナーを充実させる	2
	夏休み（冬休みでも）に子ども向けイベントがいろいろある	-
	小さい時から利用すると、大人になっても利用する。子どもが利用したい図書館に	2
	本について読むたのしさをおしえてほしい	-
	子どもが1日過ごせる（本が充実・放課後や土日にイベント 外には遊具やボール遊びできる場所）図書館	1
	子どもコーナーに本のおもちゃや木の家をおく。楽しいイスもおく	1
	親子で利用したい図書館	2
	子どものコーナーに子育ての本を充実させる	-
サービス		
	図書館の利用についておしえてほしい	-
	返却ポストに本を入れたら（システム上で）返却されるようなポスト	-

	パソコン利用がしやすい環境（Wi-Fi・大きな机・コンセント）がある	-
	CDやDVDの貸し出しをする	-
	DVDを館内で見れる（座って）場所が4つはある	-
	机（4人・向い合わせで2人）が4つはあり、館内で見える本や古新聞等を見れる様になっている（真ん中に柵があり、向い合わせの人と顔が合わない）	-
	10～20年前の本も残っている様に蔵書を16万冊以上にしたい。	2
イベント・連携		
	住民との協働でイベントを実施する	1
	イベントをいろいろしてほしい	-
まちとの繋がり		
	働く人（職員）と利用する人がカフェ系式でわきあいあいと話せることができる	-
	移動図書館が欲しい	-
	まちのイベントを積極的に宣伝する	-
	最優先は「子ども」	2

注記) 【】は、アイデアの検討に当たり考慮したペルソナ設定を示します。

👍欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

B班		👍
本・学び		
	ここの図書館に行けば色々な調べ物が出来る	1
	実は、移動図書館がほしい	0
	移動図書館	-
	郷土資料で柴田町を多くの人々に知ってもらいたい古文書が必要	2
	柴田町の歴史、文化の資料を調べられる	1
	昔学生の頃、読んだ本をもう一度読みたい	2
	柴田町の特色を生かす図書館	-
コミュニケーション・ゾーニング		
	ゆっくり話ができ、お茶ができる	-
	司書さんといろいろな話をしてみたい	-
	古文書があるので解説する人を大至急そろえること	-
	おすすめ本に反応がある	-
居心地・環境		

	明るい陽ざしの部屋でゆっくり読書出来る	1
	大きな窓がある図書館	1
	受験生に優しい図書館	1
	勉強のためだけのスペースがある図書館	1
	頑張る人を応援してくれる図書館（環境が整っている）	-
	感覚ミュージアムの一階にあるような香りが出るところがある図書館	2
	1人の時間をつくる区切られたスペースがある図書館	1
	お昼寝をしてもよい図書館	-
子ども		
	子どもをつれて行っても、気を使わない	1
	親子で楽しめる図書館	-
	かるい水遊び場や遊具のある図書館	-
	図書館の外に遊具やバスケットゴールなどがある	-
	秘密基地	1
	一緒に過ごせる図書館	-
サービス		
	柴田町の観光マップを、わかりやすく見られる	1
	調べ物とかに丁寧に対応してくれる司書さんが居る	1
	ゆっくり調べ物をしたり、くつろげる	1
	軽食がとれるような飲食店がついた図書館	1
	夜まであいている図書館（21時や22時まで）	3
	読書感想文や紹介文が置いてある図書館	1
	おすすめの本の定期宅配	2
イベント・連携		
	いろいろな出前講座がある図書館	-
	いろいろな興味を深く掘り下げるような材料を提供してくれる図書館	2
	地域の工芸や伝統的なもののワークショップがひらかれる図書館	1
	絵本で紹介してある料理やお菓子を作るイベントがある図書館	-
	年代で分ける。小中学生のとき読んでいた本など	-
まちとの繋がり		
	地域の方々の得意なことを発表できる図書館	-
	散歩・料理・手仕事等仲間作りができる図書館	1
	身近な図書館／近くに本がある	0
	出会える図書館	1

注記) ㊦欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

C班		👍
本・学び		
	時短の料理メニューがのっている本を借してほしい	-
	悩みごとに対してサブリとして本を提供する図書館	-
	読んだ本を実践できる図書館	-
	フードドライブならぬブックドライブ	3
	電子図書	2
	マンガがある	2
	しかけ絵本、大型の絵本が充実している	2
コミュニケーション・ゾーニング		
	友達と一緒にいける場所	-
居心地・環境		
	料理が作れる	1
	古川の図書館 居心地がいい（暖房）	-
	高校生が勉強している風景	-
	毎日行きたくなるようなところ	-
	テスト勉強ができる図書館	3
	手をくわえる事ができる図書館	3
	座り心地の良いイス	-
	立体的な図書館	1
	通路が広い図書館	-
子ども		
	子どもを自由に遊ばせて下さい	3
	子どもに絵本を読んでほしい	-
	孫・ひまごもつれていけるようなところ	1
	探検できる図書館	-
サービス		
	何でも相談にのってくれる	3
	時々、司書がコスプレする図書館	1
	ドライブスルー	1
	インスタでオススメ配信	1
	司書さんがオシャレ	3
	キーワードを伝えたら司書さんがセレクトしてくれるサービス	-
	地元のおかしを買える	1

	月曜日が休みじゃない図書館	4
	スタバがある図書館	3
	Wi-Fi がある図書館	3
イベント・連携		
	共有できる図書館	-
	読書以外のイベントが多くある図書館	1
	酒（ワイン、日本酒 etc）の講演と試飲のできるイベントのある図書館	6
	料理本のレシピを实际作るイベント	-
	有名人がイベントでくる図書館	1
	ハロウィンできる図書館	-
まちとの繋がり		
	内水対策	1
	図書館で町の情報を知りたい	-
	行事・祭りの映像で残す	-
	働くことがじまんでできる図書館	-
	モニター	-

注記) ㊦欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

D 班		㊦
本・学び		
	過去を知る	-
コミュニケーション・ゾーニング		
	毎日これる（しゅうかん化する）【シニア】	-
	最新号の確認【シニア】	-
	花に水をやる【シニア】	-
居心地・環境		
	座れる場所がある	-
	ひとりになれる時間をもてる【社会人】	1
	自分自身と対話【中年】	1
子ども		
	絵本の絵をまねして描いてみれるスペース	-
	子どもを通じて親同士のつながりができる【子育て世代】	-
	小学生向けのイベントに参加【子ども】	1
	作品てんじ【子ども】	-

	気持ちのきりかえ・勉強【中高生】	-
	図書館の外でも友だちと集まれる。	2
	勉強している人を横目で見ると	-
サービス		
	しばた町のことを知れる、感じれる図書館（花・歴史）【観光客】	3
	入りやすい入り口【観光客】	1
	展示⇒親に見てもらえるキッカケ	2
	工作イベント⇒展示（学校でやったことのバージョンアップ）	1
イベント・連携		
	学校との連携	2
	司書さんに気軽に聞ける【司書】	3
まちとの繋がり		
	町の紹介コーナー	2
	生涯学習センター（2～3か所）／公民館／駅の本棚	1
	地域の見守り的な役割	2
	つながるきっかけをつくる図書館（文化・歴史・地域・知識・多世代）	1

注記) 【】は、アイデアの検討に当たり考慮したペルソナ設定を示します。

△欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

E班		△
本・学び		
	図書館の存在理由を証明するのは蔵書です（松岡享子さん）	2
コミュニケーション・ゾーニング		
	静かな（勉強できるような）スペース 交流（話し合いやみんなで作業できる）スペースがほしい →ゾーンによって分ける	-
居心地・環境		
	ひといきつけるような場所（城址公園が近いからこそ）	2
サービス		
	司書さんが、働きやすく、個性（知識・趣味）を出していただき、楽しい 雰囲気があると良い。	8
	前にいた図書館の経験を生かす【司書】	-
	興味あるテーマ（昆虫、恐竜など）をもっと知ることができる 【子ども】	1

まちとの繋がり		
	図書館までの交通手段が確保されている【シニア】	2
	移動図書館—各公民館（学セン）に巡回 できればかわいい車種 【子育て世代・シニア・中高生】	2
	観光で町を訪れた人⇒外観（建物）を見て、立ちよりたくなるような雰囲気 気が欲しい（インスタなどでアップされるような）	3

注記) 【】は、アイデアの検討に当たり考慮したペルソナ設定を示します。

△欄の数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

A

子どもと共に成長する「もみみの木図書館」 (柴田の歴史を感じさせる)

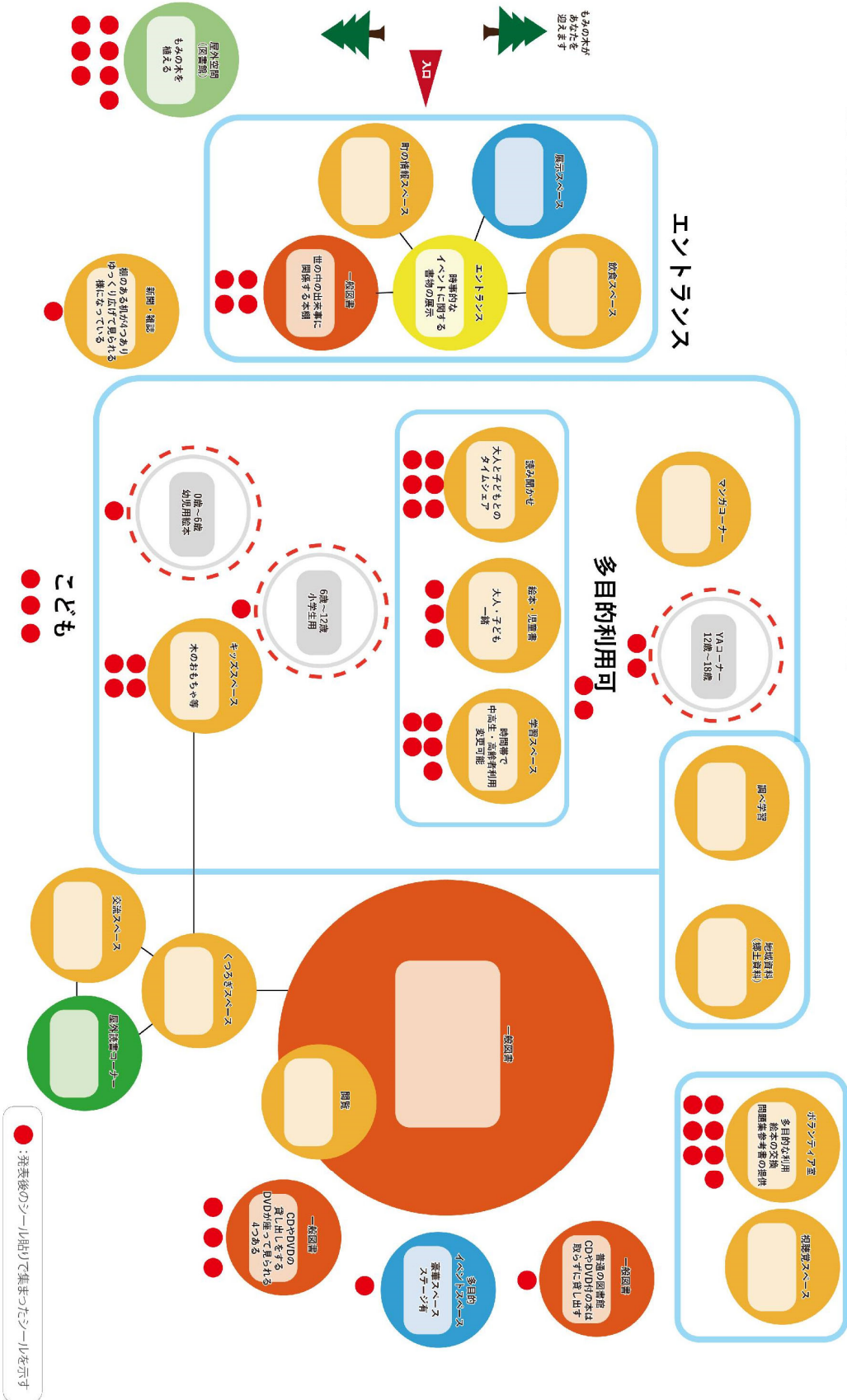
子どもを最優先に考えることで、他の年代も継続に来てくれるような、成長する図書館と共に、「縦の木は残った」をモチーフに柴田の歴史に繋がるイメージが示された。

要旨

子どものスペースを広くとりつつも、時間帯によって大人や学生、高齢者も利用できるスペースとして多目的に利用できる構成や、子どもの本は年齢に応じたゾーンングとすることなど、子どものスペースに重点を置いた提案がされた。

また、ボランティア室を利用した利用者同士の本の交換や提供など、住民参画を促す機能も提案された。

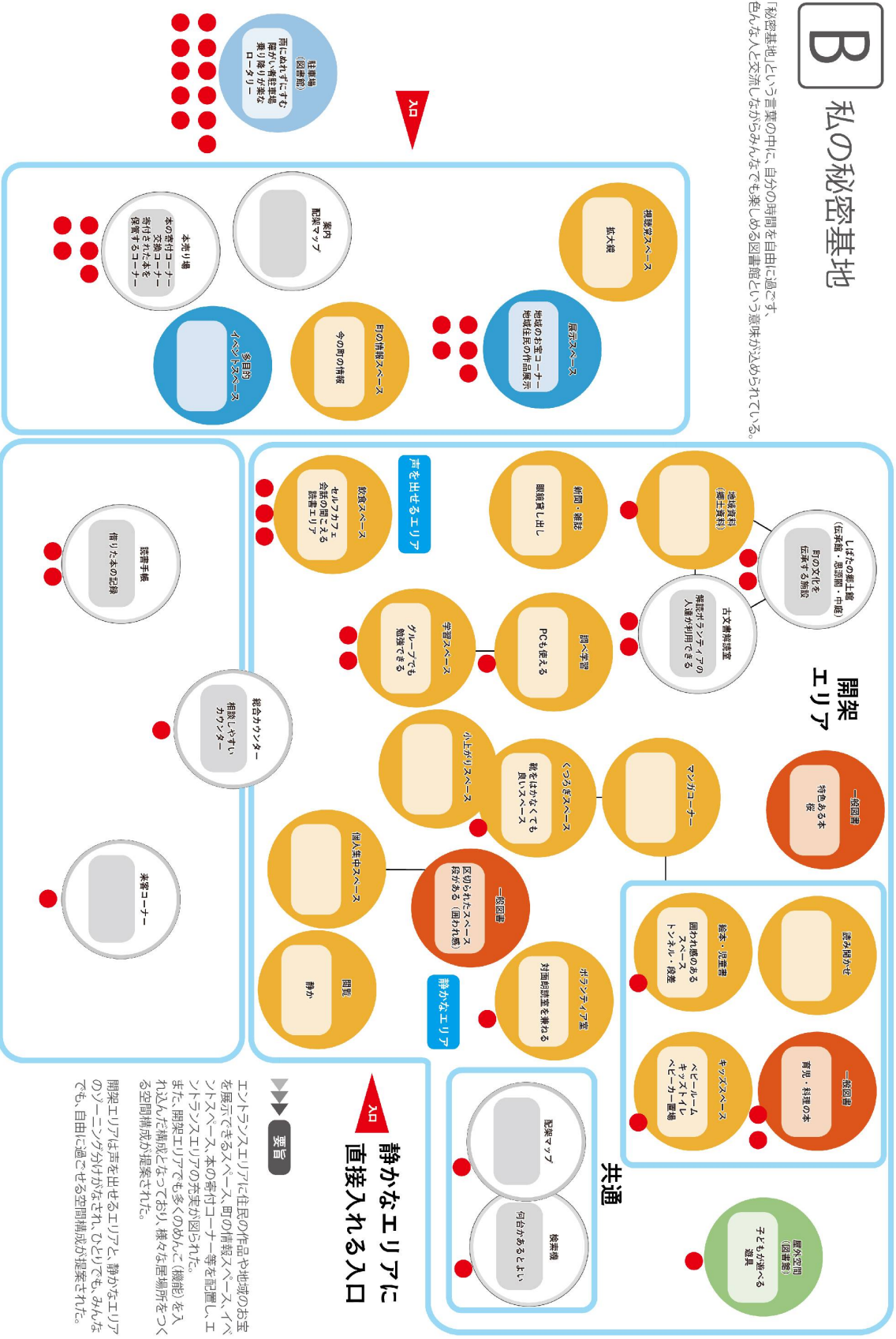
多目的



8-1-3 第3回ワークショップで挙げた意見一覧

B 私の秘密基地

「秘密基地」という言葉の中に、自分の時間を自由に過ごす、
色んな人と交流しながらみんなでも楽しめる図書館という意味が込められている。



エントランス

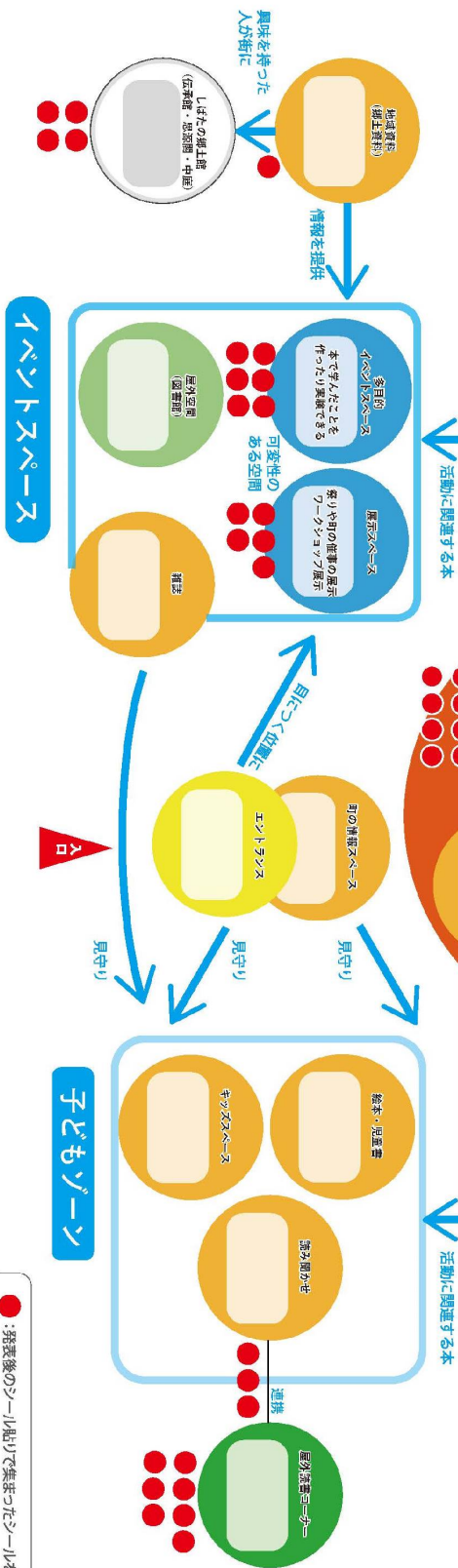
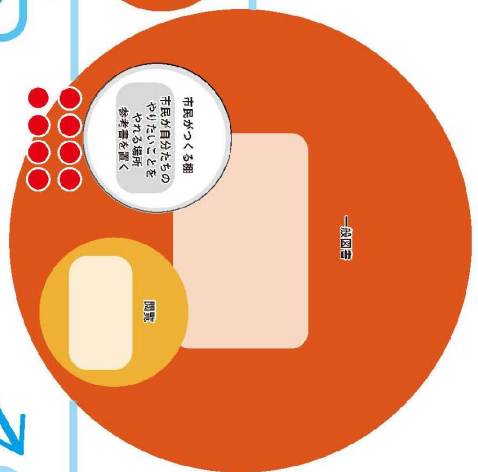
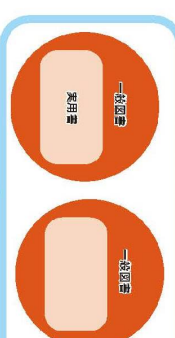
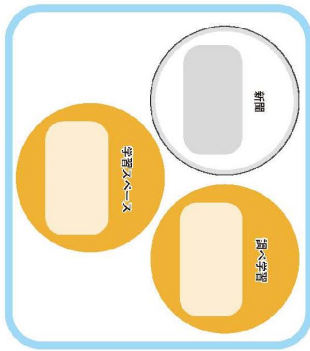
バックヤード

C

よりそう図書館

様々なサービスのアイデアを集約して、煮詰められる。何でも相談できる、実践できる、みんな安心して集まれる、など多角的な視点を利用者に「よりそう」という言葉に込めている。

静かなエリア



要旨

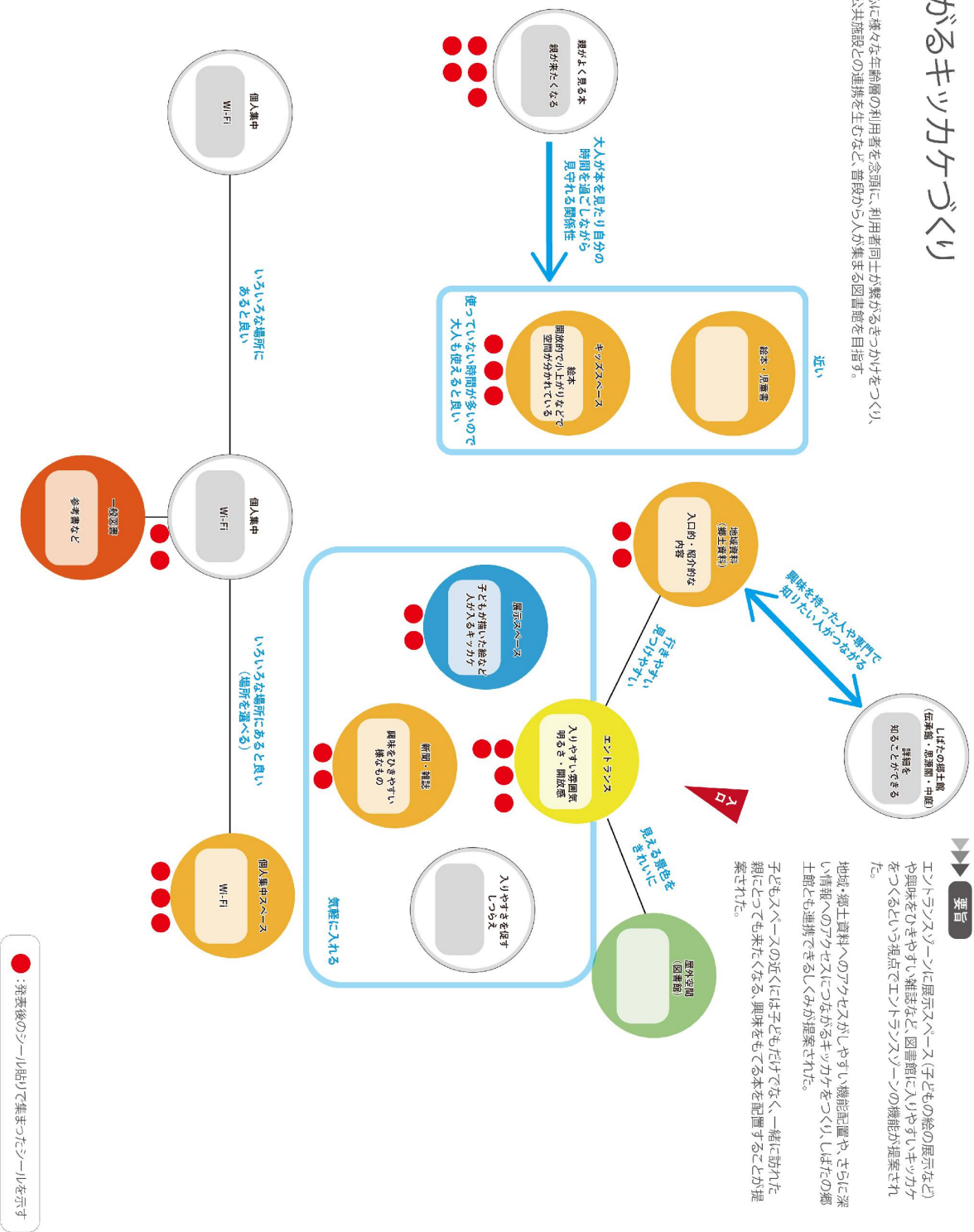
イベントスペースや子どもゾーンの近くに、それぞれの活動と関連した本を配置することが提案された。またイベントスペースは展示スペースや屋外空間と連携した「可変性のある空間」として、様々な町民の活動を受け入れるような空間が提案された。そのほか、子どもゾーンの見守りやすさを考慮した空間構成や、町民が内容を企画できる棚（市民がつくる棚）など、安心して利用できる、町民のアイデアが集まる構成が提案された。

●：採案後のシェール貼りで集まったシェールを示す

D

つながるキッカケづくり

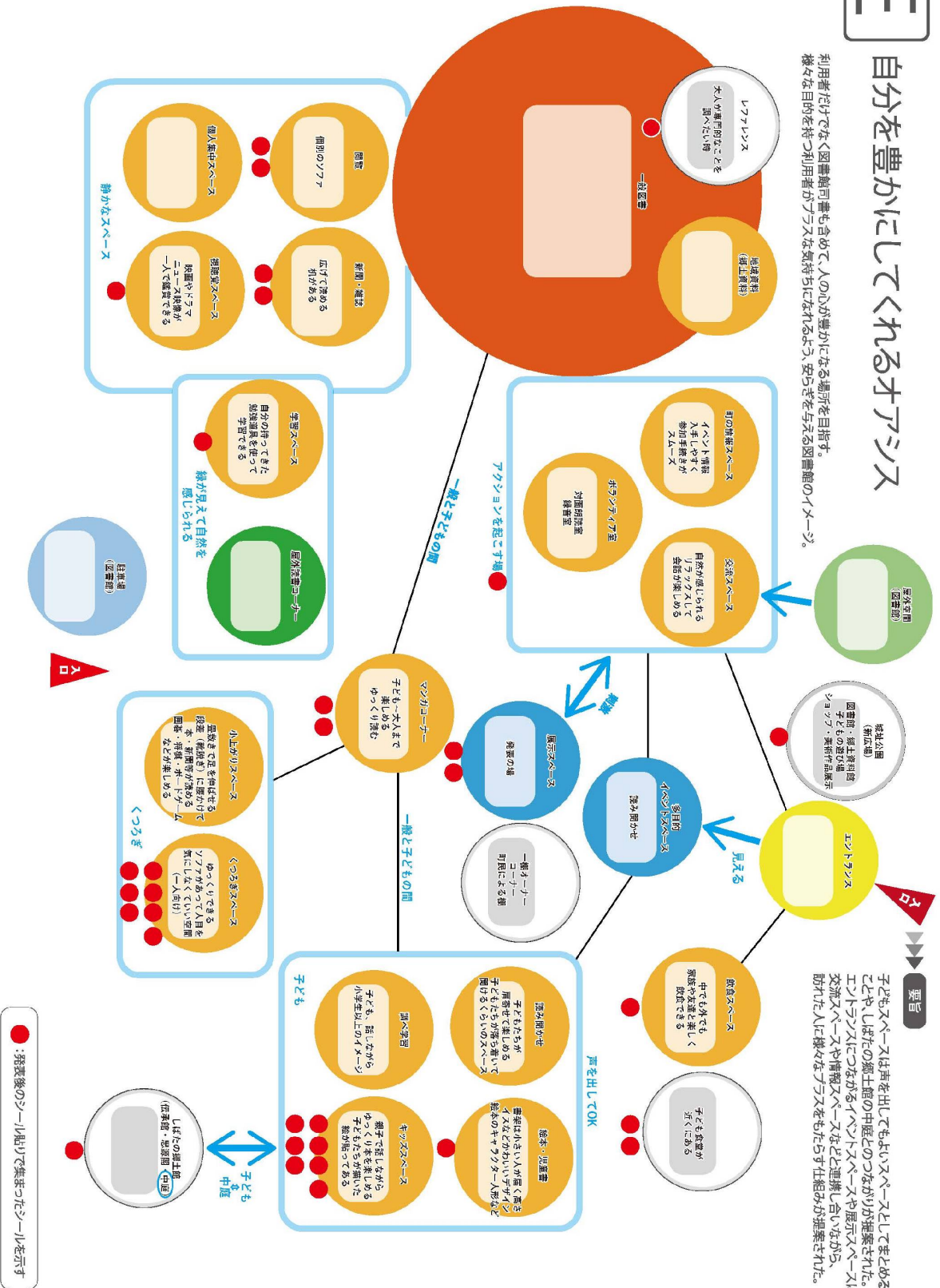
子どもを中心に様々な年齢層の利用者を念頭に、利用者同士が繋がるきっかけをつくり、学校や他の公共施設との連携を生むなど、普段から人が集まる図書館を目指す。



E

自分を豊かにしてくれるオアシス

利用者だけでなく図書館司書も含めて、人の心が豊かになる場所を目指す。様々な目的を持つ利用者がフランスな気持ちになられるよう、安らぎを与える図書館のイメージ。



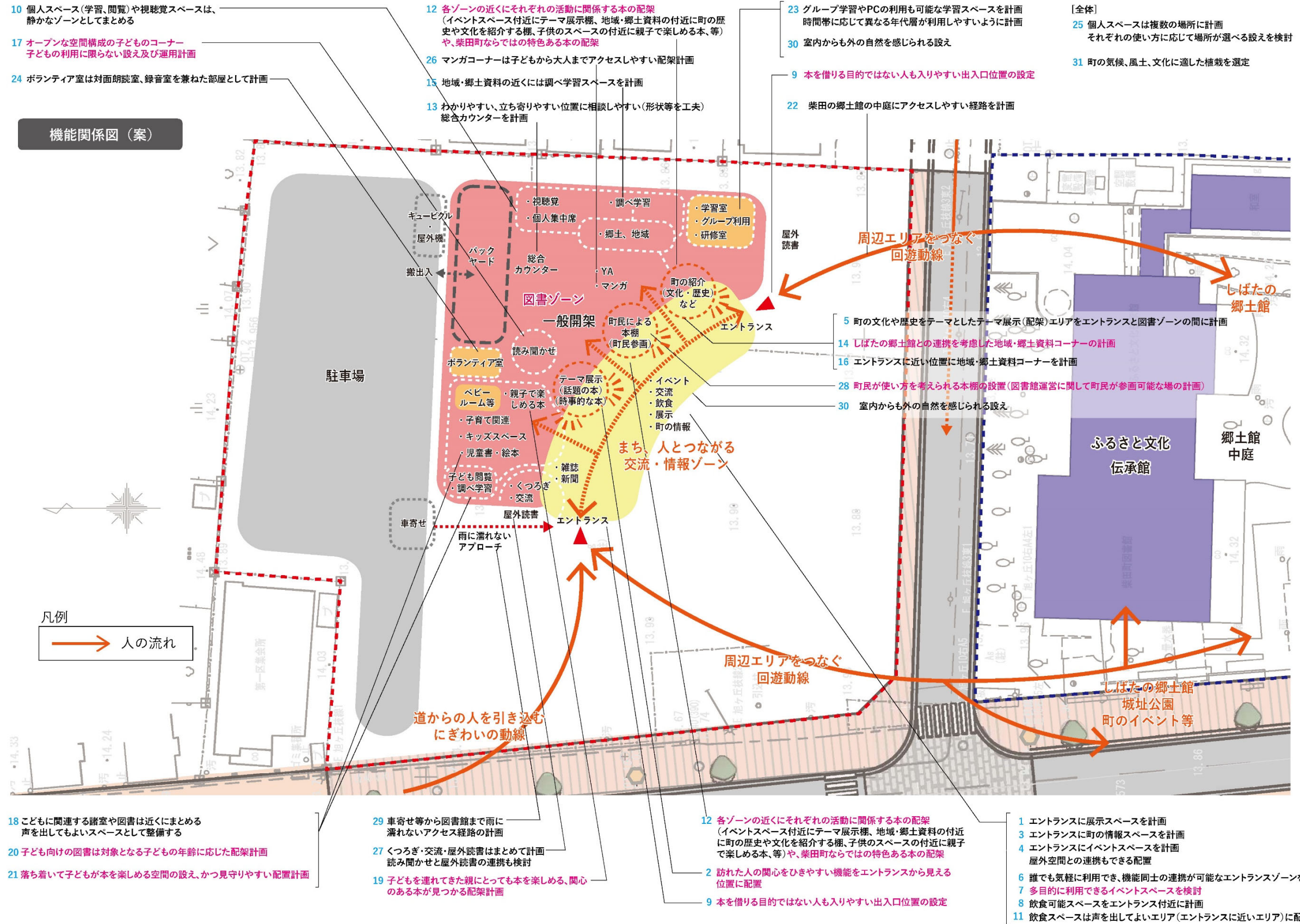
第3回ワークショップで挙げた意見一覧及び基本計画への反映検討事項

■ 各グループからの意見(内容の近いものを横に並べる)

※●は発表後のシール貼りで集まったシールの数を表す。(●:1~3個、●●:4~5個、●●●:6個以上)

		A 子どもと共に成長する「もみの木図書館」 (集田の歴史を感じさせる)	B 私の秘密基地	C よりそう図書館	D つながるキッカケづくり	E 自分を豊かにしてくれるオアシス	機能関係図(案)への反映	備考	
エントランスゾーン	展示スペース	エントランスゾーンに展示スペースを配置	エントランスゾーンに展示スペース(地域住民の作品展、地域のお宝コーナー)を配置 ●●	エントランスから目につきやすい位置に展示スペース・多目的イベントスペースを配置 ●●	子どもの絵を展示する等により図書館に入りやすいきっかけをつくる ●	発表の場としての展示スペース ●	⇒ エントランスに展示スペースを計画	1	
		タイムリーな(時事的、世の中の出来事に関する)本の展示 ●●			興味をひきやすい新聞・雑誌等を入口付近に配置することによって気軽に入れる雰囲気をつくる ●		⇒ 訪れた人の関心をひきやすい機能をエントランスから見える位置に配置	2	
	町の情報スペース	エントランスゾーンに町の情報スペースを配置	エントランスゾーンに町の情報スペース(今の町の情報)やイベントスペースを配置	エントランスゾーンに町の情報スペースを配置				⇒ エントランスに町の情報スペースを計画	3
		交流・イベントスペース		屋外空間と連携したイベントスペース			エントランスから多目的イベントスペース(読み聞かせ)が見える	⇒ エントランスにイベントスペースを計画 ⇒ 屋外空間との連携もできる配置	4
				イベント・展示スペースは地域・郷土資料と連携(情報を提供)				⇒ 町の文化や歴史をテーマとしたテーマ展示(配架)エリアをエントランスと図書ゾーンの間計画	5
						町の情報スペースや交流スペースは外からアクセスしやすく、展示スペースや多目的イベントスペースとも連携しやすい配置とすることで、それぞれの活動が興味をひきあう関係性 ●	⇒ 誰でも気軽に利用でき、機能同士の連携が可能なエントランスゾーンを整備	6	
		多目的イベントスペースを設ける(ステージなど) ●	多目的イベントスペースをエントランスゾーンに設ける	イベント・展示スペースは可変性のある空間 ●				⇒ 多目的に利用できるイベントスペースを検討	7
			視聴覚スペースをエントランスゾーンに設ける	本で学んだことを実践できる(作ったり、実験など) ●●●					機能によってはしばたの郷土館の活用を検討
	飲食スペース	エントランスゾーンに飲食スペースを配置	飲食スペース(セルフカフェ) ●				エントランス付近に屋内外で飲食できるスペースを配置 ●	⇒ 飲食可能スペースをエントランス付近に計画	8
	その他		静かなエリアに直接アクセスできる出入口			入りやすい雰囲気のある設え・明るさ・開放感 ●●	くつろぎスペースや学習スペース付近に出入口	⇒ 本を借りる目的ではない人も入りやすい出入口位置の設定	9
書架エリア	音のゾーニング		声を出せるゾーンと静かなゾーンの区分	静かなエリアに新聞・調べ学習・学習スペースを配置 ●		個別閲覧席・新聞雑誌・視聴覚スペース・個人集中スペースは静かなスペースとして整備 ●	⇒ 個人スペース(学習、閲覧)や視聴覚スペースは静かなゾーンとしてまとめる	10	
			閲覧席や個人集中スペースは静かなゾーンに寄せて配置						
			飲食スペースは声を出してよいエリアに配置					⇒ 飲食スペースは声を出してよいエリア(エントランスに近いエリア)に配置	11
	全体の配架		配架マップや検索機(複数台あると良い)を設置 ●	こどもゾーンやイベントゾーン等、それぞれのゾーンの近くにその活動に關係する本の配架				⇒ 各ゾーンの近くにそれぞれの活動に關係する本の配架(イベントスペース付近にテーマ展示棚、地域・郷土資料の付近に町の歴史や文化を紹介する棚、子供のスペースの付近に親子で楽しめる本、等)や、集田町ならではの特色ある本の配架	12
			特色ある本を置く(様)						検索機など機器の導入は運営方針と要調整
	総合カウンター		司書さんとコミュニケーションが取れるカウンター(相談しやすいカウンター)				レファレンスカウンターを設置(専門的なことを調べたい時利用) ●	⇒ わかりやすい、立ち寄りやすい位置に相談しやすい(形状等を工夫)総合カウンターを計画	13
	地域・郷土資料		地域・郷土資料としばたの郷土館(伝承館)が連携 ●	地域・郷土資料としばたの郷土館が連携(興味を持った人が町に出かけるきっかけ) ●●	地域・郷土資料(入口・紹介的な内容)としばたの郷土館(興味を持った人が専門的な内容を知れる)が連携 ●			⇒ しばたの郷土館との連携を考慮した地域・郷土資料コーナーの計画	14
		調べ学習・地域郷土資料は近くに配置	古文書解説室(解説ボランティアの方が利用できる) ●					⇒ 地域・郷土資料の近くは調べ学習スペースを計画	15
							⇒ エントランスに近い位置に地域・郷土資料コーナーを計画	16	
	こども	子どものスペースをある時間帯は大人も利用できるようにする(多目的利用を可能とする) ●●●				子どものスペースをある時間帯は大人も利用できるようにする/キッズスペースは開放的で小上がりなど(閉鎖的でないもの)で空間が分かれる設え ●		⇒ オープンな空間構成の子どものコーナー 子どもの利用に阻まない設え及び運用計画	17
読み聞かせ・絵本児童書・学習スペースは近くに配置		読み聞かせ・絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	読み聞かせ・絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	絵本児童書・キッズスペースは近くに配置	読み聞かせ・絵本児童書・調べ学習・キッズスペースは近くに配置、声を出してよいスペースとして整備(絵本をその場で読んであげられる)		⇒ こどもに関連する諸室や図書は近くにまとめる 声を出してよいスペースとして整備する	18	
子ども(0~18歳)のスペースを大きく取る		キッズスペース付近に子どもトイレやベビールーム、ベビーカー置場を配置 ●			親子で話しながらゆっくり本を楽しめるキッズスペース ●●●		⇒ 子ども連れで来た親にとっても本を楽しめる、関心のある本が見つかる配架計画	19	
		キッズスペース付近に育児・料理の本を配置			キッズスペースの近くに親が良く見る本を配置(見守りやすく親も本を楽しめる/親が来たくなる設え) ●●	子どもたちの絵が貼ってあるキッズスペース	⇒ 子ども向けの図書は対象となる子どもの年齢に応じた配架計画	20	
年齢に応じて子どもの本をゾーニング(0~6歳乳幼児、6~12歳小学生、12歳~18歳YA) ●●							⇒ 着ら着いて子どもが本を楽しめる空間の設え、かつ見守りやすい配架計画	21	
		困われ感のある児童書閲覧コーナー(トンネル・段差) ●	エントランスゾーンから見守りやすい位置に子どものゾーンを配置			⇒ 柴田の郷土館の中庭との連携 ●	⇒ 柴田の郷土館の中庭にアクセスしやすい経路を計画	22	
学習スペース	時間帯で中高生/高齢者シェア ●●	学習スペースはグループでも使えるように ●				自分で持ってきた勉強道具を使って学習できる ●	⇒ グループ学習やPCの利用も可能な学習スペースを計画 勉強机に応じて異なる年代層が利用しやすいように計画	23	
		PCも使える調べ学習コーナー ●				子ども用の調べ学習スペース			
ボランティア		ボランティア室は対面朗読室を兼ねる ●				ボランティア室は対面朗読室、録音室を兼ねる	⇒ ボランティア室は対面朗読室、録音室を兼ねた部屋として計画	24	
閲覧席	横のある机が4つあり、ゆっくり雑誌や新聞を広げて見ることのできる設え ●	静かな閲覧席			いろいろな場所に個人集中スペースがあると良い(場所を選べる、Wi-Fi) ●●●	雑誌や新聞を広げて見ることのできる机 ●	⇒ 個人スペースは複数の場所に計画 それぞれの使い方に応じて場所が選べる設えを検討	25	
					参考書が個人集中スペースの近くにある	個別のソファ ●			
その他	視聴覚資料のブースを設ける ●	マンガコーナーはくつろぎスペースと子どものスペースの間に配置				マンガコーナーは大人も子どもでもアクセスしやすい位置に配置、ゆっくり読むことができる ●	⇒ マンガコーナーは子どもから大人までアクセスしやすい配架計画	26	
	くつろぎスペース、交流スペース、屋外読書コーナーをまとめる	靴を履かなくてもよいくつろぎスペース・小上がり ●	読み聞かせコーナーと屋外読書コーナーの連携 ●●●			ソファや目を気にしなくてよい空間のくつろぎスペース ●●●	⇒ くつろぎ・交流・屋外読書はまとめて計画 読み聞かせと屋外読書の連携も検討	27	
その他	ボランティア室を多目的に利用(絵本の交換、問題集や参考書の提供) ●●●	本を寄付できる本棚、本の交換コーナーを配置 ●●	町民がつくる棚(参考書を置く、町民が置きたい本を置く)を配置 ●●●			町民による本棚を設置(一棚オーナーコーナー)	⇒ 町民が使い方を考えられる本棚の設置(図書館運営に関して町民が参画可能な場の計画)	28	
	屋外空間	駐車場	雨に濡れずに建物にアプローチできる障害者駐車場、乗降が楽なロータリー ●●●					⇒ 車寄せ等から図書館まで雨に濡れないアクセス経路の計画	29
屋外利用			子どもが遊べる道具 ●		室内から見える外の景色はきれいに	交流スペースや学習スペースは自然を感じられる	⇒ 室内からも外の自然を感じられる設え	30	
		屋外読書コーナーを整備					屋外読書コーナーを整備		
その他	シンボルツリーとしてもみの木を植える ●●●						⇒ 町の気候、風土、文化に適した植栽を選定	31	

第3回ワークショップの意見を踏まえたゾーニング計画案



8-1-4 第4回ワークショップで挙げた意見一覧

(A班)

カテゴリー	挙げられたアイデア	👍
自然	自然を感じられるような	1
	巣箱がかけられる木を植えてある	1
	子どもが水遊びできる	2
	虫用の植物を植える（山椒・柑橘類）	
	木登りできる	6
	雑木林のある	5
	小鳥や小動物がやってくる	2
	虫とりできる	
	小川（せせらぎ）のある	3
	美しい花が植えてある	1
日陰	亜熱帯性気候に対応できる（屋根・設備）	1
	亜熱帯性気候に適した植栽のある	
	日かげで休めるスペースのある	
読書	読書したり飲食できるテント、イス、テーブルのある	1
	木陰で読書のできる	2
	「あずまや」やベンチのある	1
	ゆっくりおしゃべりできる	
	ゆっくり本を読める	2
イベント	イベントが（小規模）できる	
	かまどでピザやバーベキューできる	2
	丸太割りのできる	1
子ども	大型絵本や紙芝居のある	2
	子どもエリアからすぐ外に遊びに出られるようにする	1
	子どもが思いっきり走り回れる（遊べる）	1
	子どもは遊べる、大人はくつろげる	
歴史	歴史を感じられるような	2
	大手門のある	5
その他	自由にできる場所のある	
	音楽が聴きたい場所がある	
	虫が館内に入っていない	

	かくれる場所がいっぱいある	1
	飲食自由な	
	車の突っ込み事故のない ゴミ箱のない	1
	郷土資料は現図書館に移す	12
	子どもの遊び場は室内ではなく外につくる	3
	本の内容が分かる並べ方にしてほしい	

注記) 黄色の欄は建物に関する意見を示します。

数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

(B班)

カテゴリー	挙げられたアイデア	👍
	住宅側への配慮 (窓・壁など) 植栽	4
	駐輪場 [自転車及安全に中に入るための通路]	1
	身体障害者用駐車場に屋根が必要	
	土手滑りができる起伏のある	2
	花壇・畑 (町民による) (子どもたちの食への興味・大切さ) のある	3
	自然・生きもののことを学べる	3
	害虫 (外来種など) 子どもが学び知らせてくれる (案内板、掲示板)	3
	シンボルツリー (桜?) のある	
	木登り (安全に) ができる	5
	噴水 (蒸気が出る装置) のある	1
	子どもが自然・木の中で遊べる	6
	木はいくつか残す (どんぐり、松ぼっくり)	3
	郷土資料の保管	8
	郷土館とのつながりが感じられる	3
	子どもが通っても安全に	2
	休める場所のある	1
	木陰のある	3
	遊ぶ場、健康遊具 (メンテナンスしやすい、劣化しづらい)	1
	東側に「地域の植栽を模した自然な空間」を眺めながら散策できる通路を設け、「静かなエリア」に行ける特	1

	別感	
	小学校区ごとに起伏をつくり、各学校の発表（調べ学習、アート作品など）の場を設ける	4

注記) 黄色の欄は建物に関する意見や追加のアイデアを示します。

数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

(C班)

カテゴリー	挙げられたアイデア	👍
休憩・イベントスペース	屋根（休めてイベントができる）のある	3
	バーベキュー（水道・ベンチかまど付）できる	2
	本が読めるテラス（雨宿り）	1
子ども	道路と遊び場を分けるマウンドのある	3
	子どもが走り回れる長いコースのある	3
広場	キャンプができる	2
歴史	歴史のつまった郷土館	5
	おもむきのある中庭	3
	史跡、歴史がわかるサイン・オブジェのある	6
	イス・石がある	3
その他	車が入りづらくなる車路の仕上（カラーアスファルト）	1
	サウナがあるといい	

注記) 黄色の欄は建物に関する意見や追加のアイデアを示します。

数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

(D班)

カテゴリー	挙げられたアイデア	👍
建物	伝承館となじむつくり（和風？）	
	柴田の特産物や人を紹介するコーナー	7
	自分のやっていることを発信できる場所	
子ども	いろいろな年代の子が近くで遊べる、大人も近くにいられる	
	死角（親が子どもの場所をすぐわかる）のない	3
	車がそれなりに通る	
	広くない方が車がスピードを出しにくい・歴史性も考える	1
	子どもが安全に通れる	6

人の流れ	世代間交流（畑づくり等）のできる	3
	オリエンテーリング（季節の植物などを回れる）のある	2
	季節のクイズ大会・答えは読み聞かせエリアにある（図書館の利用につながる）	1
	エリアの他にも展開可能な	1
過ぎしかた	桜が見える（座ってくつろぎながら）	1
	縁側のある	5
	内から外の様子が見える、子どもを見守りやすい	
歴史	大手門が昔あったことがわかる仕組み	6
隣地への配慮	住宅地との視線が通りにくい	
	道の向かいの家への配慮のある	3
その他	目が疲れたときに外に出て緑が見える	2
	歩いてきた人が興味を持てる仕組み	

注記) 黄色の欄は建物に関する意見や追加のアイデアを示します。

数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。

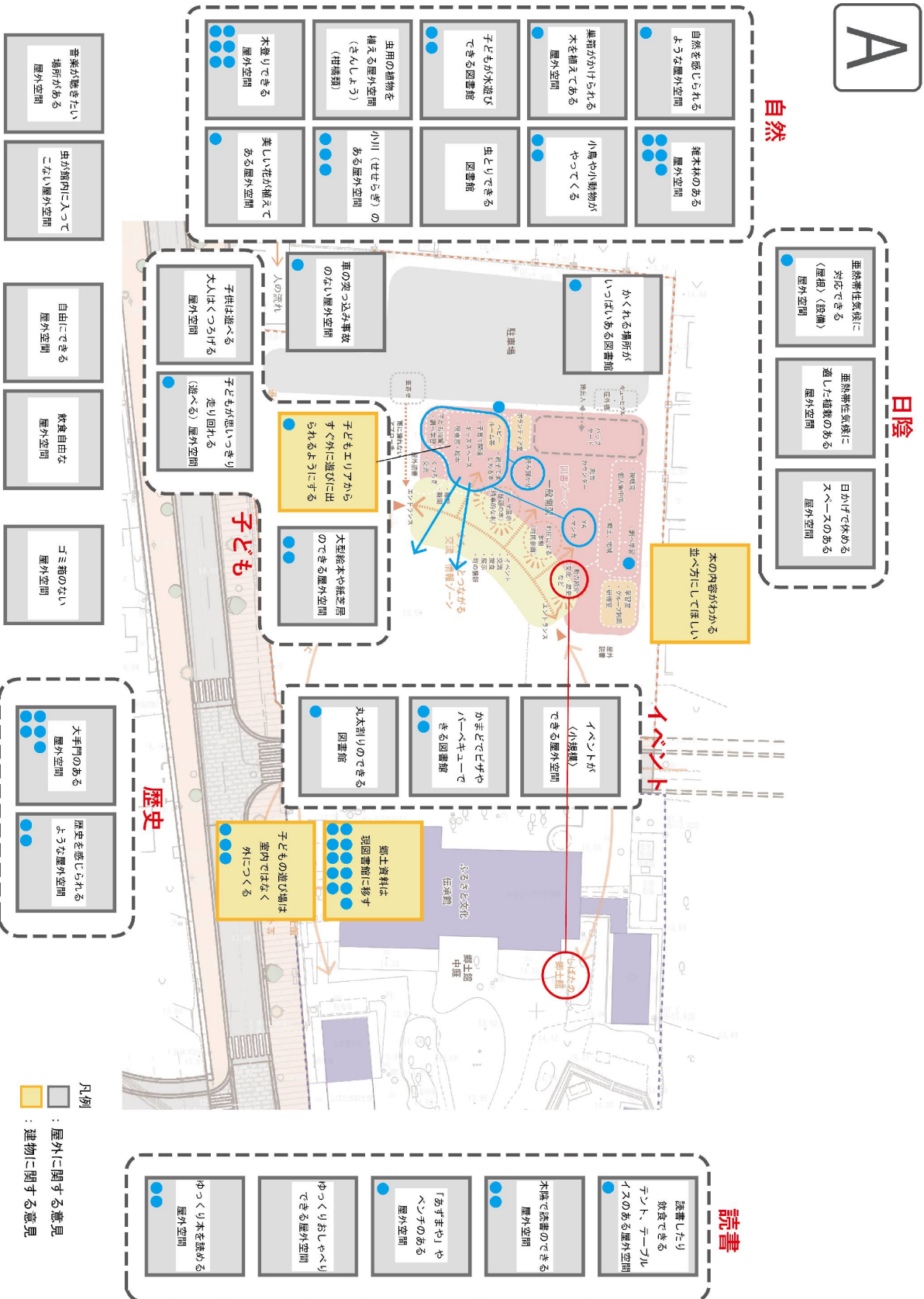
(E班)

カテゴリー	挙げられたアイデア	👍
内⇄外の景色	大きな窓から外の景色が見える	
	建物に入った時に空や緑が見えたり、室内に植物がある（隣で読書したり）	
	人工的なものでない自然な樹木などがある	2
	座る場所は切り株のような自然なものな	
	図書スペースに入ると本がたくさんある風景が見たい	2
	図書館としての景色として望ましいのは書架（蔵書）でぐるりと囲まれる景色が幸せ	2
自由な使い方、フラット	自由な使い方ができるようフラットで区切らない	
	何もない区切りのない	1
	固形化しない、どのように使っても良い	1
	段差のない	
	安全にゆっくり歩ける小道	3
	水路を利用し子どもが水遊びできる広場	4
伝承館とのつながり柴田らしきモニュメント	小室さんの作品像が展示してある公園風景	7
	柴田町在住の作家さんにシンボルを作ってもらい飾る	2

歴史と自然を学ぶサイン	柴田町の歴史を学べるサインのある	2
	幼児や海外から来た人にもわかりやすいサインのある	
	この土地が昔、どの様なところだったかがわかる（史跡、歴史等）	4
道路との関係	中庭から道路が見えない（非現実感）	2
	休日に朝市をやる	
館内	大人と子どものコーナーが反対の方が良い（駐車場に子どもの場が近いと飛び出しが怖い）	1
	絵のある図書館、本のある郷土館（参考：庄内町）	1
	新聞雑誌の場所は大人コーナー寄りに、子ども空間は子どもの世界観としてまとめる※新聞雑誌は現実的	2
	歴史と文化が学べる観光につなげるコーナー	2
	小さな子どもたちの小さなイスを並べてほしい（トイレ便器も）	
その他	空を眺めながら本を読めるリクライニングタイプのイスや縁側のある	3
	外から図書館の内部の様子がわかるつくり	
	子どもたちが思いきり騒いだり動きまわれる	2
	所用のついでに立ち寄りたくなる散策コース	2
	ふるさと文化伝承館を子どもの屋内遊び場として通路を設けて行き来できるようにする	
	車椅子で安全にまわれる	
	水はけがよく滑りにくい安全な	2
	ゴミ（ゴミ処理の工夫）のない	1
	入口アプローチ付近にミスト（夏の猛暑対策）のある	1

注記) 黄色の欄は建物に関する意見や追加のアイデアを示します。

数字は共感を寄せた意見へ参加者から貼られたシールの数を示します。



B

